

# 丸茂電機株式会社

本 社	東京都千代田区神田須田町1-24	TEL (252) 0321
営 東 京	東京都千代田区神田須田町1-24	TEL (252) 0321
業 名 古 屋	名古屋市中村区日置通り2-12	TEL 名古屋 (561) 1687
所 大 阪	大阪市北区神山町32	TEL 大 阪 (312) 1913

# 3

# 会 報

日本照明家協議会



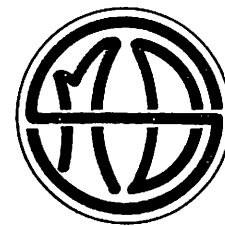
# 舞台照明・舞台吊物



## 調光

オート・トランス式  
S C R 方式

株式会社 松村電機製作所



本社営業所 // 東京都文京区根津宮永町22 TEL<821>6161(代)  
大阪出張所 // 大阪市北区真砂町3(真砂ビル) TEL<361>9421  
本社工場 // 東京都葛飾区金町2-637 TEL<607>2166(代)



会報第三号。これで三協会やっとな  
とまわり担任がまわりました。  
割合と気軽にお受けして、思いがけな  
い難産。ともあれ、お送りします。  
私達、中部の会員は戦後の世代です。  
この号は、若い世代、やがては協会を  
動かす筈の世代の発言を求めました。  
いろいろな意味で、役立ってくれると  
せめて、申訳が立つというわけです。

中部舞台照明家協会  
若尾 正也

### 目次

#### 中部のホール

名古屋市公会堂 名鉄ホール 瀬戸市民会館 愛知文化講堂  
四日市市民ホール 愛知県中小企業センター講堂 浜松市民  
会館 中電ホール 愛知県体育館 刈谷市民会館

#### 特集 私の思うこと

私的照明論への試み ..... 岩品 健介 26  
テレビ照明に於ける彩色と無彩色について ..... 河合 浩 29  
若手からの発言 ..... 浅沼 貢 30  
放言 ..... 土山 道郎 31  
貸ホール側照明家の云い分 ..... 成田 金一 32  
偶感 ..... 加藤 郁平 37

#### 白黒テレビ照明の実際

和田 光弘 40

私の履歴書(続)  
名残三十路春夢

柘植 貞輝 25

詩 プレヒトに込めて

岩品 健介 38

新製品紹介 SIDAC調光装置・フォロースポット  
三団体だより

岩品 健介 35  
36

49

# 中部のホール

全国協議会会報第三号の発行を中部で担当することになり、なにか中部で発行する特色をと、中部地区の主だったホールを紹介することになりました。最近はその地方にも、毎年といつてよいぐらい新しいホールが続々と誕生しています。昭和二十年代には、名古屋宝塚劇場（現在映画専門館）、御園座それに駐留軍接収中の名古屋市公会堂ぐらしかホールと名のつくものなかつた当地方にも、昭和三十年を境に、近代施設をもったホールが次々と建設され、現在も名古屋に中日会館、刈谷市に刈谷市民会館、春日井市に春日井市民会館と続々建設中です。在京劇団等が素通りしていたところでも、大都市で観ると同じ舞台を

観ることができるようになり、自分たちの町にホールをもつことによつて、労音・労演活動もさかんになってきました。今まで劇団の地方公演の際など、現地の状況がわからずいろいろ苦勞が多かつたものです。このホール紹介によつて多少なりともその心配が解消されれば幸甚と思ひ、ここに掲載することにしました。中部にもこんな立派なホールが沢山できました。まだまだこれからもできるでしょう。これから建設されるホール等の多少なりとも参考になれば幸いです。

## 名古屋市公会堂

所在地 名古屋市昭和区鶴舞町六  
 一 電話 七三一一七一九一  
 所有者 名古屋市  
 所在地 公園緑地  
 建築工期  
 起工 昭和二年四月二日  
 竣工 昭和五年九月三〇日  
 建築面積 延一、七七三㎡(三、五六一坪)  
 温湿度調整装置  
 観客席 二、〇八四席

控室 二室  
 舞台  
 間口 一五・三㎡、奥行 一〇・三㎡、プロセニアムアーチの高さ 五・四㎡、簀の子の高さ 二・二㎡  
 舞台設備及び備品  
 緞帳一、絞緞帳一、引割幕一(以上電動式)、中幕、カスミ幕、黒幕、大道具吊下げ用バトン八、合唱台、音楽台、所作台、平台、組立式花道、音響反響板、金屏風二

客席照明  
 白熱灯 二〇〇W×二四灯、一〇〇W×一六四灯  
 蛍光灯 四〇W×二四灯  
 平均照度 五〇ルクス  
 調光器 白熱灯用七・五KW×三  
 蛍光灯用 五KW×三

舞台照明  
 総主幹 五〇〇A 三P  
 負荷回路 八四回路  
 調光回路 二〇A×三〇回路(二〇回路)

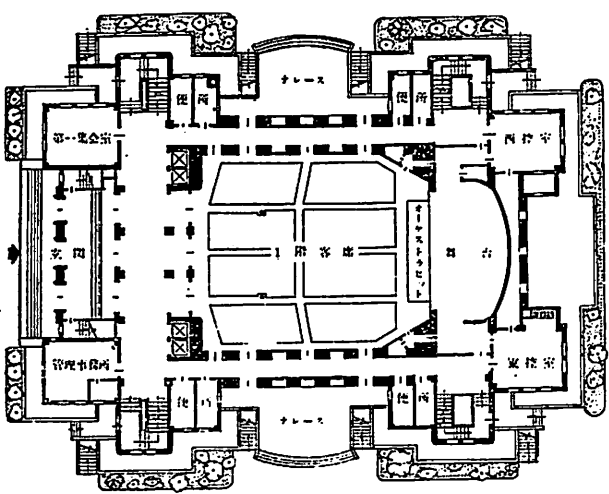
双演壇(花台付)、椅子一〇〇、ピアノ(フルコンサート)、グラウンド型一)  
 ○KW調光変圧器×三台)  
 プラグ盤  
 二段プレセット式  
 フットライト 六〇W×八四灯(二一灯……四回路)  
 第一ボーダーライト一五〇W×八〇灯(五十一〇十五……四回路)  
 第二ボーダーライト一〇〇W×八〇灯(二〇灯……四回路)  
 第三ボーダーライト 蛍光灯四〇W×九灯(一回路)  
 アッパーホリゾントライト 五〇〇W×四〇灯(五〜三灯……一回路)

ローアホリゾントライト 一〇〇W×八八灯(六十一〇十六……四回路)  
 第一サスペンションライト T型  
 コンセント三〇A×八回路  
 第二サスペンションライト T型  
 コンセント三〇A×八回路  
 フロアーコンセント  
 A型コンセント三〇A×一回路  
 路(LHを含まず)  
 サイドギャラリ  
 上手・下手 各一KW(フレネルレンズ付)×二  
 タワー 上手・下手各上段一KW(フレネルレンズ付)×二、下段

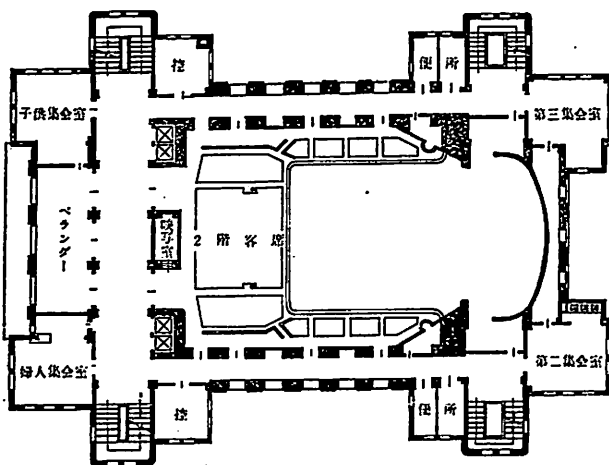
一KW(フレネルレンズ付)×一  
 フロントサイド照明室 二室  
 各室 一KW(フレネルレンズ付)×二……二回路、一KW(平凸レンズ付)×二……一回路、一KW(Wピンスポットライト)×二……一回路  
 シーリング照明室  
 一KW(フレネルレンズ付)×二……二回路、一KW(平凸レンズ付)×二……一回路、一KW(Wピンスポットライト)×二……一回路  
 舞台に対する俯角  
 舞台前縁へ 五〇度  
 その他  
 エフェクトマシン、リップルマ

シン、ストリップライト、フットスポットライト、ステージスポットライト、アークピンスポットライト  
 音響設備  
 主増巾器 五〇W×二台(予備五〇W×一台)  
 ミキサアンプ マイク入力×七  
 PU入力×一、TR入力×二(予備マイク入力×四、PU入力×二)  
 レコードプレーヤー、テープレコーダー  
 マイクロホン昇降装置 一ヶ所  
 映写設備

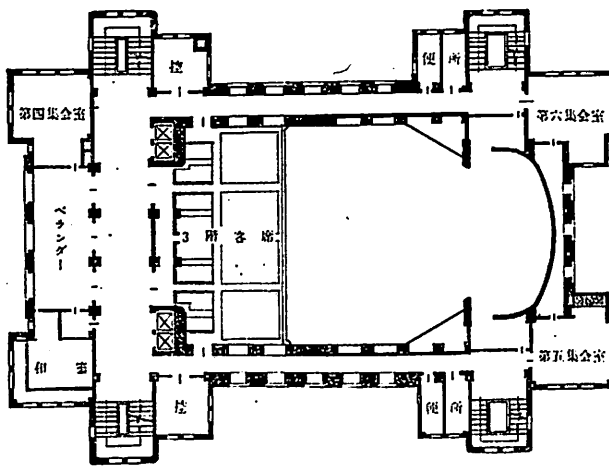
三五型映写機 一式(フジセントラルF6型)  
 スクリーン 巾二二㎡、高さ四・六五㎡  
 館内連絡設備 インターホン(親子式・親×三・子×六)  
 設計者 名古屋建築課  
 施工者 池田組  
 工事費 一八六万円  
 交通案内 国鉄鶴舞駅 下車又は国鉄名古屋駅より市電・市バス 鶴舞公園前下車  
 ホールの設備 小ホール、会議室、展示室、食堂  
 建設の沿革 天皇陛下の御成婚を祝し、名古屋市記念事業として建設。



1階平面図



2階平面図



3階平面図

# 名鉄ホール

所在地 名古屋市中村区笹島町一―二  
 二六 名鉄ビル内八階―一〇階  
 電話 五五一―三八八四  
 所有者 名古屋鉄道KK  
 使用者 名鉄百貨店  
 所在地 商業地域  
 建築工期

起工 名鉄ビル第二期工事(昭和二九年二月)  
 竣工 昭和三年七月二七日  
 建築面積 延三三九・六㎡  
 温湿度調整装置

観客席 ワンスロープ式

一七〇席(固定席九一九席  
 ・補助席二五一席)

楽屋 和室 六、浴室 二  
 舞台

間口 四七・八尺、奥行四一・四尺、  
 プロセニアムアーチの高さ、二四・六  
 尺、簀の子の高さ、四六尺  
 廻り舞台(回転速度可変) 径三六尺  
 迫り 四尺×六尺……三台  
 小迫り 三尺×四尺……二台  
 仮設舞台類  
 本花道、張出しステージ、仮花道(上  
 手、下手エプロンステージ兼用)

オーケストラピット兼エプロンステージ

間口 四〇尺、奥行 七・七尺  
 舞台面・客席面・茶落面へ昇降可能  
 舞台設備及び備品

絨帳 二、絞絨帳 一、引割幕 二、  
 スクリーン 一、ホリゾントバック  
 一、カスミ幕 五、大道具吊下げバト  
 ン 二〇、フライングブリッジ、金屏  
 風 二双、銀屏風 二双、毛せん、所  
 作台、平台、演壇(花台大小付)、オ  
 ーケストラ用ひな壇、指揮台、指揮者  
 用譜面台、譜面台(電灯付) 八〇、椅  
 子 六〇、ピアノ(フルコンサート、  
 堅型)、ヴィヴラホン、コントラバス  
 ・ティンパニー(二五吋、二八吋)、  
 宮太鼓、楽太鼓、大太鼓、桶胴、当り  
 鐘、銅鑼、本釣、木魚、長唄見合  
 ホール電源

ホール照明用 一〇〇KVAX三台  
 三相四線式  
 ホール動力用 五〇KVAX三台、三  
 相三線式  
 テレビ電源用(ディーゼル発電機切替付)  
 一〇〇A

客席照明  
 白熱灯 一〇〇W×一四六灯

舞台照明

総主幹 六〇〇A 四P  
 負荷回路 二二六回路  
 調光回路 一五AX六〇回路、三〇A  
 X四〇回路、四〇AX二六回路  
 選択プラグ盤(フットライト・ポード  
 ーライトは固定)

二段プレセット式  
 フットライト 六〇W×八〇灯(五十  
 一〇十五……四回路)  
 第一ポードーライト 一五〇W×八〇  
 灯(五×一〇十五……四回路)  
 第二ポードーライト 一五〇W×七二  
 灯(四十一〇+四……四回路)、(T  
 型コンセント 三〇A回路×四付)  
 第三ポードーライト 一五〇W×六四  
 灯(三十一〇+三……四回路)  
 第四ポードーライト 一五〇W×六四  
 灯(三十一〇+三……四回路)、(T  
 型コンセント 三〇A回路×四付)  
 第一サスペンションライト  
 T型コンセント 三〇A回路×二〇  
 第二サスペンションライト  
 T型コンセント 三〇A回路×一六

アップーホリゾントライト 三〇〇W  
 X五四灯(八灯……七回路)  
 フロアーコンセント A型コンセント  
 三〇A回路X二〇、A型コンセント  
 五〇A回路X二  
 廻り舞台コンセント A型コンセント  
 三〇A回路X四  
 サイドギャラー  
 上手・下手 各A型コンセント三〇  
 A回路X九  
 トーメンタル・タワー  
 上手・下手 各一KW(フレネル  
 ンス付)X二……四回路  
 フロントサイド照明室 四室  
 各室 一KW(フレネルンス付)  
 X二……二回路、一KW(平凸レン  
 ス付)X二……二回路、A・C・五  
 〇AアークスポットライトX一台  
 シーリング照明室  
 T型コンセント 三〇A回路X一  
 一KW(フレネルンス付)X一八  
 センター照明室  
 D・C・五〇Aピンアークスポット  
 ライトX二台、A・C・五〇Aア  
 クスポットライトX二台、ブレンカ  
 ート式映写機X一台  
 其他  
 二KW(フレネルンス付)X六、  
 一KW(フレネルンス付)X二五、  
 五〇〇W(フレネルンス付)X  
 三〇、三〇〇W(フレネルンス付

主増巾器 出力二〇W(二〇―二〇〇  
 〇〇±1pp 歪率1%以下)  
 立体再生可能 プロセニアム 三チャ  
 ンネル(又はステージ) 三チャ  
 ンネル、壁面 二チャンネル 計五チャ  
 ンネル(八チャンネル迄可能)

主調整卓  
 分配混合回路入力 一〇回路 出力  
 八回路、マイク入力X二五、ライ  
 ン入力X五(検聴可能)、ワイヤレ  
 スマイク入力X五、映写入力X五、  
 線路インピーダンス六〇〇Ω平衡

内蔵ユニットアンパ(マイクアン  
 パX二五、調整アンパX八、混合ア  
 ンパX八、モニターアンパX三)、  
 モニター(場内モニター、二チャ  
 ンネル ステレオ 一組、アンパモ  
 ニター 一七回路 一組)

### 副調整卓

調整回路X一、場内モニター 二  
 チャンネル ステレオ  
 テープレコーダー調整卓  
 入力X二回路、出力X七回路、テ  
 ープレコーダーリモートコントロー  
 ルX三組  
 ワイヤレスマイク用 四チャンネ  
 ル  
 レコードプレーヤー 二連式X一台  
 テープレコーダー 三チャンネル(ス  
 テレオ)X三台、二チャンネル(ス  
 テレオ)X一台

### 音響設備

高忠実度立体音響装置

### マイク用

プロセニアム(指向性三ウェイ)X  
 三組、効果・映写用(オールホーン  
 型三ウェイ)X三組、ウォール用(一  
 単一フルレンジ型)X二個、楽屋  
 ロビー用X一八個

### 映写設備

三五%映写機 一式(ニュースター)  
 幻灯器(D・C・アーク用) 一台  
 スクリーン 巾一四m・高さ六m  
 場内連絡設備  
 インターホン(相互通話並列式)X二  
 系統

### 設計者

日建設計工務KK  
 施工者 竹中工務店  
 舞台設備 三精輸送機KK  
 舞台照明設備 丸茂電機KK  
 音響設備 松下電器産業KK  
 映写設備 日本音響KK  
 交通案内 国鉄名古屋駅前 名鉄百貨店  
 八階

## カラーコンバージョン 11色

カラー映画・カラーTV撮影用  
 舞台照明・キャバレー照明用

発売元

器具販売 操作 設計施工 舞台照明設備  
**東京舞台照明**  
 株式会社

東京 港区新橋3-7-6 TEL1059・2948・4824 大阪 旭区大宮西之町1-78 (952) 0343

### 愛知文化講堂 (愛知県文化会館)

所在地 名古屋市東区久屋町八一  
八 電話九七一―五五一一

所有者 愛知県

所在地 公園緑地

建築工期

起工 昭和三二年五月二五日

竣工 昭和三三年五月三一日

建築面積 延六、九九五㎡ (一、九

九五坪)

温湿度調整装置

観客席 フンスロープ式

一、六四〇席(固定席一、

四三八席・補助席二〇二

席)

控室(楽屋)

大一室(一階・和洋) 一五二㎡

、約五〇名収容

中 一室(二階・和室) 六〇㎡、

約二〇名収容

小 一室(二階・洋室) 三三㎡

浴室 二室(一・二階)

シャワー 五室(一階)

舞台

間口 二三・二m (約一・二・八

間)、奥行二二m (約六・五間)、

プロセニアムアーチの高さ九m (

約三〇尺)、質の子の高さ二〇m

(約六六尺)

大迫り 一台 三・五m (約一・

九二間) × 一四m (約七・七間)

中迫り 二台 一・八m (約一・間)

× 六m (約三・三間)

小迫り 一台 一・八m (約一・間)

× 六m 一・八m (約一・間)

スライディングステージ 三ヶ所

花道(仮設)

上手・下手 各二・一m (約一・

二間) × 五・五m (約三・間)

中央一・六m (約五尺) × 一四・

九m (約八・三間)

オーケストラピット兼エプロンステ

ージ

間口 一九m (約六二尺)、奥行

二・九六m (約九尺)

昇降可動(電動)することにより

前舞台及び客席として使用できる

舞台設備及び備品

絨帳 一、絞絨帳 一、スクリー

ン一、ホリゾントバック一 (

以上電動式)

ホール電源(専用変電室)

一般電灯用(ロビー・楽屋その他)

五〇KVA × 一台、単相三線式

舞台客席照明用

五〇KVA × 三台、三相四線式

舞台動力用

五〇KVA × 三台、三相三線式

客席照明

白熱灯 一〇〇W × 二〇二灯

蛍光灯 四〇W × 九〇灯(間接照

明)

平均照度 八〇ルクス

調光器 白熱灯用 一〇KW × 三

台

蛍光灯用 三KW × 三台

舞台照明

総主幹 六〇〇A 四P (客席照

明分を含む)

負荷回路 一七二回路

調光回路 三〇A × 七二回路 (三

〇KW 調光変圧器 × 六台)

全回路自由選択式プラグ盤

二段プレセット式

フットライト 六〇W × 一三二灯

(九十一・五九…四回路)

エプロンステージ・フットライト

六〇W × 一六灯 (七十一・五+

七…四回路)

第一ボーターライト 一五〇W × 一

一二灯 (八十一・二八…四回路)

第二ボーターライト 一五〇W × 九

六灯 (六十一・二六…四回路)

第三ボーターライト 一五〇W × 一

一二灯 (八十一・二八…四回路)

第四ボーターライト 一五〇W ×

一二灯 (八十一・二八…四回

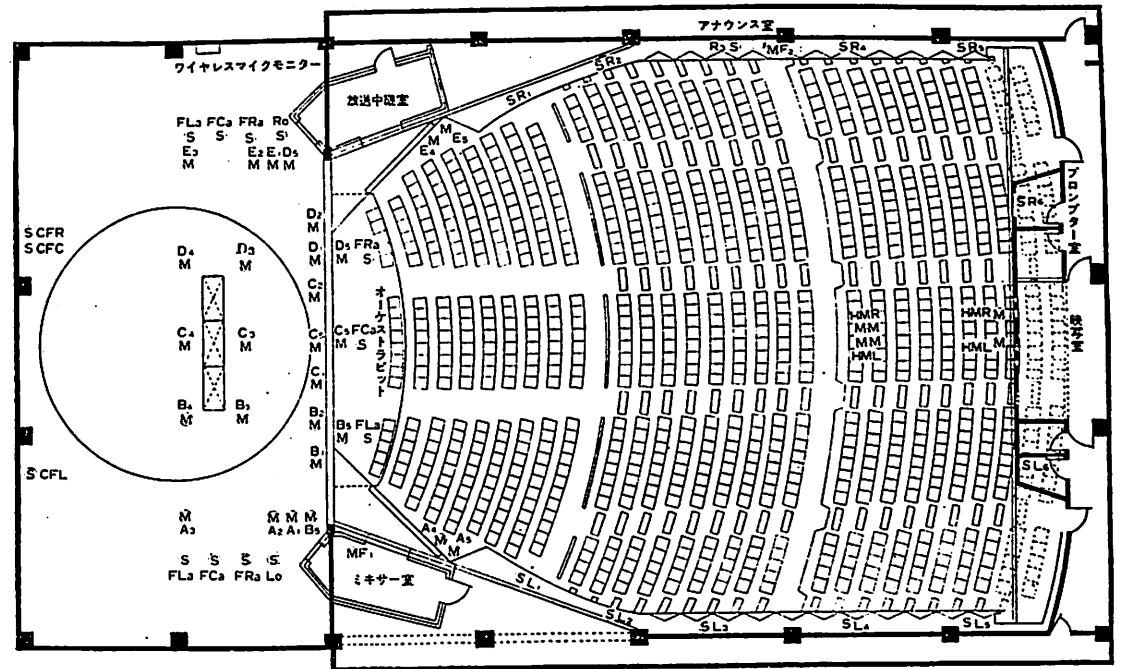
路)

(T型) コンセント 三〇A 回路

× 五付)

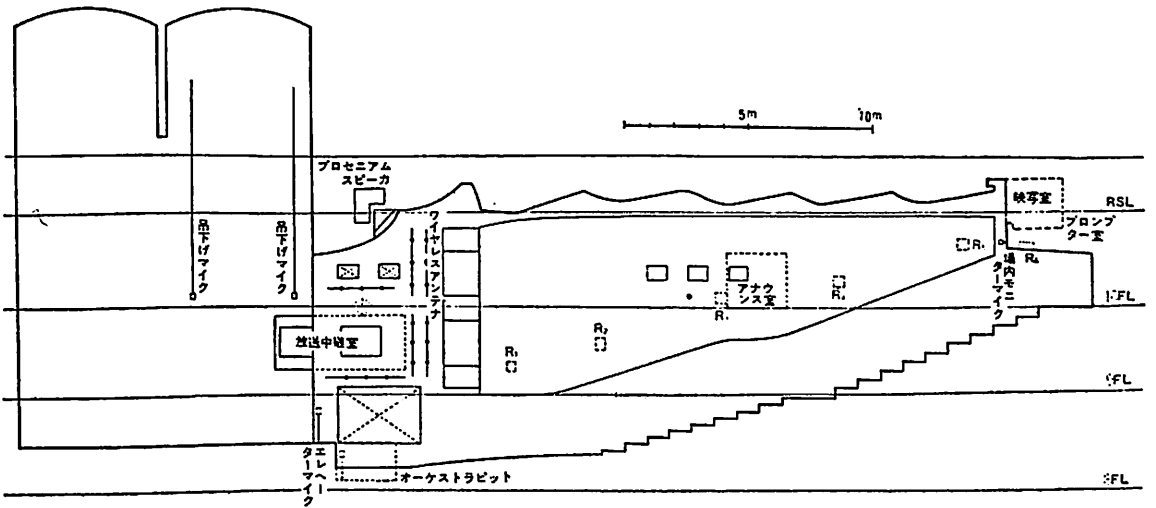
第一サスペンションライト

### 名鉄ホール

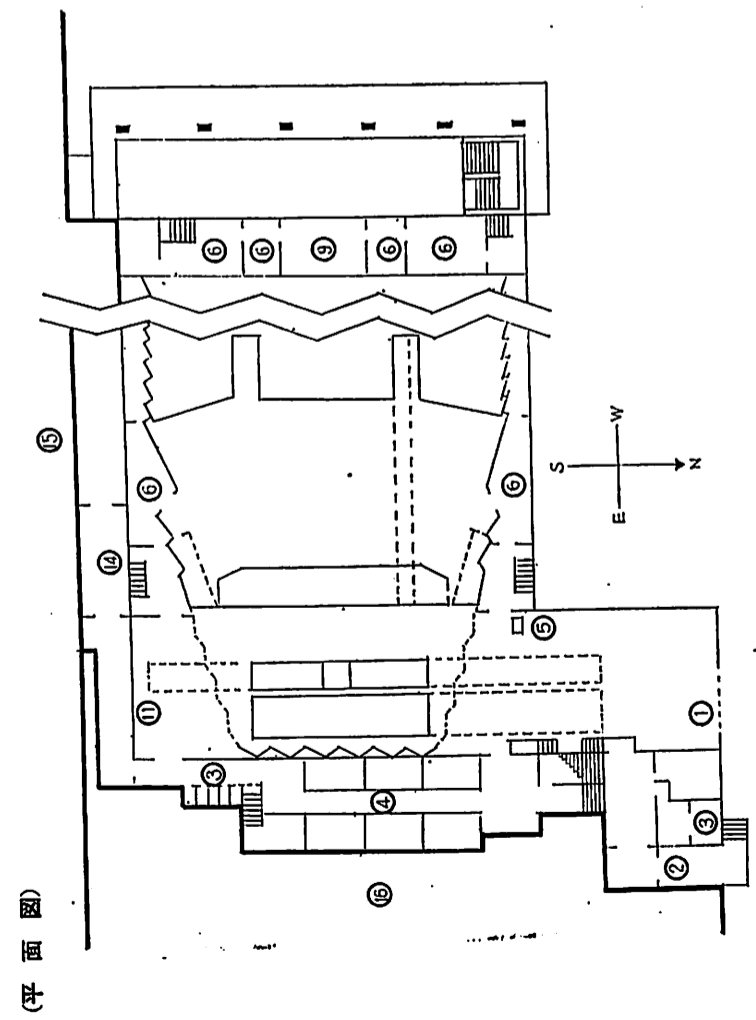


名鉄ホール平面図

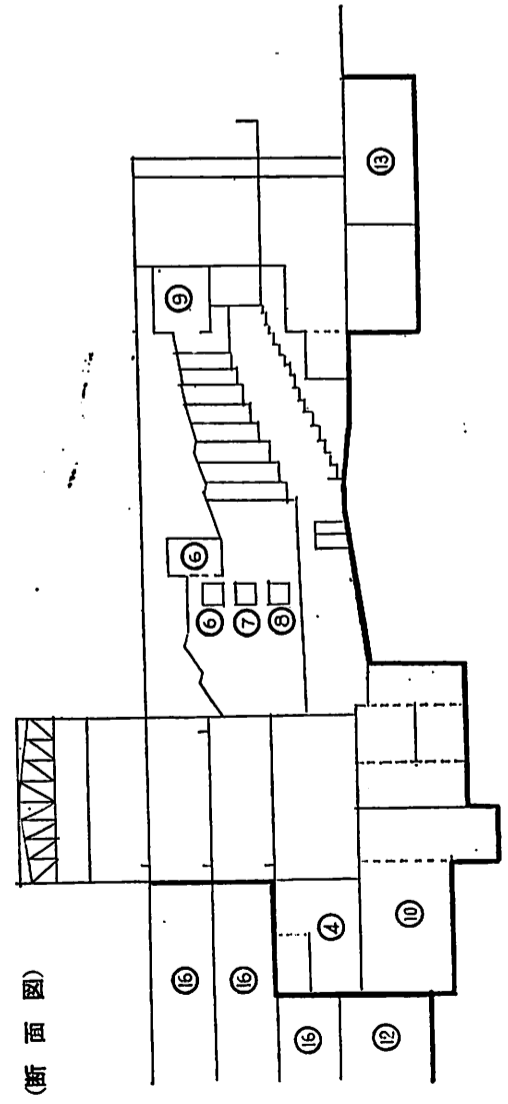
- 註1 マイクロホン (M)
  - B<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>, C<sub>1</sub>, C<sub>2</sub>, D<sub>1</sub>, D<sub>2</sub>.....エレベータマイク
  - B<sub>3</sub>, B<sub>4</sub>, C<sub>3</sub>, C<sub>4</sub>, D<sub>3</sub>, D<sub>4</sub>.....吊下げマイク
  - A<sub>1</sub>, A<sub>2</sub>, A<sub>3</sub>, A<sub>4</sub>, A<sub>5</sub> }.....スタンドマイク用コンセント
  - B<sub>5</sub>, C<sub>5</sub>, D<sub>5</sub> }.....
  - E<sub>1</sub>, E<sub>2</sub>, E<sub>3</sub>, E<sub>4</sub>, E<sub>5</sub>.....場内モニターマイク
  - HML, HMR.....
- 註2 スピーカー (S)
  - CFL, CFC, CFR.....シネマスコープ用スピーカコンセント
  - FL<sub>a</sub>, FC<sub>a</sub>, FR<sub>a</sub>.....モニター用スピーカコンセント
  - L<sub>0</sub>, R<sub>0</sub>.....効果用(シネマスコープ用スピーカ)コンセント
  - L<sub>1</sub>, L<sub>2</sub>, L<sub>3</sub>, L<sub>4</sub>, L<sub>5</sub>, L<sub>6</sub> }.....ウォールスピーカ
  - R<sub>1</sub>, R<sub>2</sub>, R<sub>3</sub>, R<sub>4</sub>, R<sub>5</sub>, R<sub>6</sub> }.....



名鉄ホール断面図



(平面図)



(断面図)

- ⑩ 図書館
- ⑨ 美術館
- ⑧ 小集会堂
- ⑦ 食堂
- ⑥ 電気機械室
- ⑤ 網元
- ④ 茶室
- ③ 映写室
- ② ミキサー室(下手)
- ① 照明調光室(上手)
- ② 投光室
- ③ 舞台操作盤
- ④ 控室(養庵)
- ⑤ 浴室(シャワー室)
- ⑥ 楽屋入口
- ⑦ 大道具搬入口

T型コンセント 三〇A回路×  
一三  
第二サスペンションライト  
T型コンセント 三〇A回路×  
一三  
アッパーホリゾントライト 三〇  
〇W×四八灯(六十六…四回  
路)、(T型コンセント 三〇  
A回路×三付)  
フロアコンセント A型コンセ  
ント三〇A回路×二六、A型コ  
ンセント二〇A回路×六、A型  
コンセント五〇A回路×二  
サイドギャラリ  
上手・下手 各A型コンセント  
三〇A回路×三  
フロントサイド照明室 四室  
各室 一KW(フレネルレンズ  
付)×二…二回路、一KW  
(平凸レンズ付)×二…一回  
路、A・C・五〇Aアークスポ  
ットライト× 一台  
シーリング照明室  
T型コンセント 三〇A回路×  
一三、D・C・五〇A回路×  
二一KW(フレネルレンズ付)  
×六台、一KW(平凸レンズ  
付)×二〇台、一KWランプピ  
ンスポットライト×五台

舞台に対する俯角  
舞台前縁へ 四五度  
" 中央へ 三三度  
" 奥へ 二五度  
センター照明室  
D・C・五〇Aピンアークスポ  
ットライト×四台、A・C・五  
〇Aアークスポットライト×四  
台  
その他  
二KW(フレネルレンズ付)×  
四台、一KW(フレネルレンズ  
付)×四〇台、一KW(平凸レ  
ンズ付)×二六台、五〇〇W(平  
凸レンズ付)×一〇台、五〇  
〇W(フレネルレンズ付)×三  
八台、五〇〇Wフットスポット  
ライト(フレネルレンズ付)×  
五台、二〇〇Wフラッドライト  
×一〇台、エフェクトマシン(電  
動可変速)×四台、リップル  
マシン×一台、同投影用スポッ  
トライト(一KW)×四台、エ  
フェクト用ディスク(書×二、  
水玉×二、雨、火焔、荒雲、薄  
曇各二)、エフェクト用オプシ  
ェクティブレンズ(四吋、六吋、  
八吋、一〇吋、一二吋、二〇  
吋、二四吋各二)、補装器×二、

ミラーボール×一、ストリップ  
ライト二・七m(一〇〇W×一  
二灯)×二、一・八m(一〇〇  
W八灯)×一〇、〇・九m(一  
〇〇W×四灯)×五、ローホリ  
ゾントライト 二〇〇W×二  
灯用×六、二〇〇W六灯用×四  
音響設備  
高忠実立体音響装置  
主増巾器 五〇W×二台  
調整卓 四チャンネル×一台(マ  
イク入力×一六、ライン入力×  
四、ラインインピーダンス六〇  
〇Ω、試験用発振器、音質調整  
増巾器付)  
補助調整卓 二チャンネル×一台  
ワイヤレスマイクロホン 二チャ  
ンネル  
効果用スピーカー×二  
レコードプレーヤー 二連式×一  
台  
テープレコーダー  
ステレオ式×一台、全巾録音式  
×一台、半巾録音式×三台  
マイクロホン  
ベロシティ型×三八、ダイナ  
ミック型×三(内ハンドマイク  
型×一)  
マイクロホン昇降装置 五ヶ所

映写設備  
三五mm映写機 一式(トーモンケ  
リー二〇型)  
一六mm映写機 一台(アーク式、  
シネスコ・磁気再生可能、エル  
モ社製)  
幻灯器 一台(一KWランプ用)  
スクリーン 巾二三・五m 高さ  
五・五m  
場内連絡設備  
インターホン(親子並列式)×三  
系統 構内電話  
設計者 小坂英雄  
施工者 KK大林組  
舞台設備 三種輸送機KK  
舞台照明設備 丸茂電機KK  
音響設備 不二音響KK  
映写設備 大沢商会外国部  
工事費 一〇一、三三〇万円  
交通案内 国鉄名古屋駅より市電・  
市バス・地下鉄栄町下車北東  
ホールの設備 会議室三、展示室、  
食堂  
建設の沿革 講和記念事業の一環と  
して企画創設されたもので、昭和  
二九年二月に美術館の着工を始め  
として、講堂・図書館を逐次着  
工、三四年三月全館完成。

# 瀬戸市民会館

所在地 愛知県瀬戸市蔵所町一  
電話 四一九一

所有者 瀬戸市  
所在地 商業地域

建築工期 起工 昭和三年一月五日  
竣工 昭和四年一月一〇日

建築面積 一、六三五坪(約四九五坪)

温湿度調整装置  
観客席 ツースロープ式

一、〇〇〇席(固定席七四七席、補助席二五三席)

控室(楽屋)二室  
約二四坪(約七坪)×二

舞 台  
間口 一四・六m(約八間)、奥行七・五m(約四・五間)、プロセニアムアーチの高さ六・五m(約二一・五尺)、質の子の高さ一・m(約三六尺)

花 道  
上手・下手 各一・五m×五m  
オーケストラピット兼客席 間口 一二m、奥行二m

## 舞台設備及び備品

絨帳 一、絞絨帳 一、スクリーン 一(以上電動式)

ホリゾントバック 白・黒 各一、カスミ幕 四、大道具吊下げ用バトン 六、引割幕一(以上手動式)

金屏風 一、銀屏風 一、毛せん、上敷、所作台(三尺×二尺：一〇枚、三尺×六尺：一〇枚)

他)、平台(四尺×六尺：一〇枚、二尺×六尺)、支木、演壇(花台付)、指揮台、譜面台三〇、椅子 一〇〇、ピアノ(セミコンサート一台、堅型一台)

ホール電源  
一般電灯用(ロビー、楽屋その他) 五〇KVA×一台、单相三線式

舞台照明用 一〇〇KVA×一台单相三線式  
舞台動力用 二〇〇A 三相三線式

客席照明 白熱灯 一〇〇W×八二灯

## 調光器 五KW×二台

舞台照明 総主幹 六〇〇A 三P(客席照明分を含む)

負荷回路 八〇回路  
調光回路 二〇A×二回路、四〇A×二回路(三〇KW調光変圧器×二台)

全回路自由選択式プラグ盤  
フットライト 六〇W×七二灯(五・九・十五…四回路)

第一ボールドライライト 一五〇W×六四灯(四十八・四…四回路)

第二ボールドライライト 一五〇W×五六灯(三十八・三…四回路)

第三ボールドライライト 一五〇W×五六灯(三十八・三…四回路)

第一サスペンションライト T型  
第二サスペンションライト T型  
コンセント 二〇A回路×一六

トーマンタル T型コンセント  
二〇A回路×四

サイドギャラリ 上手・下手  
各A型コンセント 五〇A回路×四

フロアーコンセント A型コンセント  
三〇A回路×一四

フロントサイド照明室 四室

各室 一KW(フレネルレンズ付)×二…二回路、一KW(平凸レンズ付)×二…二回路

上手・下手 各一KW(平凸レンズ付)×三…二回路

シーリング投光室 一KW(フレネルレンズ付)×二…三回路

センター照明室 A・C・五〇Aアークスホット  
ライト×一台、五〇A回路×一、二〇A回路×二

その他  
一KW(フレネルレンズ付)×八、一KW(平凸レンズ付)×四、五〇〇W(平凸レンズ付)×五、一KWフラッドライト×二、エフェクトマシン×一、スライドギャラリ×二、エフェクト用ディスク(雲、雪)、稲妻器×一、ミラーボール×一、オーロラマシン×一、ストリップライト×一・八m(一〇〇W×八灯)×四、〇・九m(一〇〇W×四灯)×三

音響設備  
高忠実度立体音響装置  
主増巾器 五〇W×二台

## 一時間 市民会館の設備

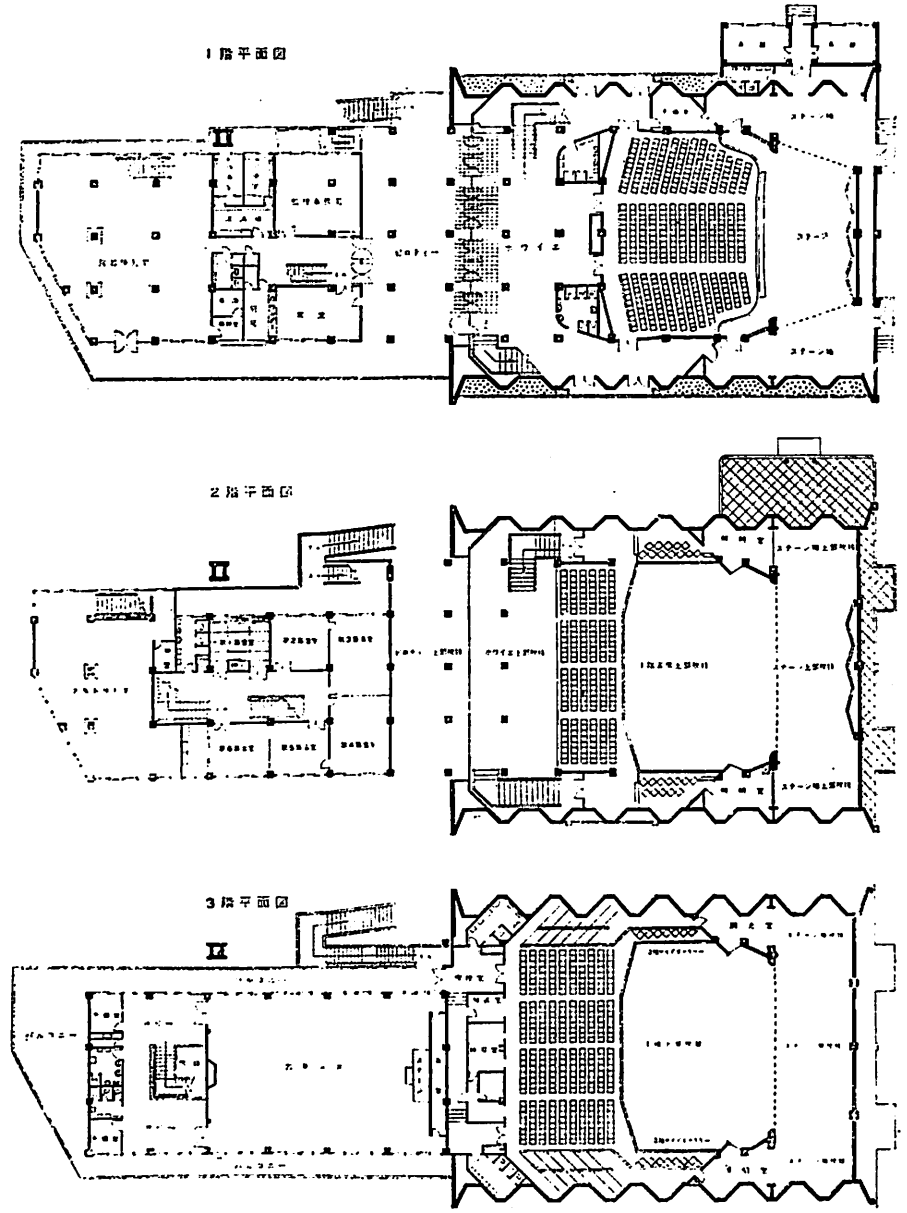
会議室(収容人員二〇名) 六室

大会議室(収容人員四〇〇名) 一室、古陶器陳列室、陶磁器センター、食堂

建設の沿革 市制三〇周年記念事業の一環として、公民館とともに三四年一〇月に完成。

- 予備増巾器 三〇W×二台
- 調整卓 マイク入力×六、ライン入力×四、ロインピーダンス 六〇〇Ω、ハイインピーダンス 五〇KΩ
- レコードプレーヤー 二台
- マイク ロホン
- ベロシティ型×六、ダイナミック型×三
- マイク ロホン昇降装置 一ヶ所
- 映写設備 一六mm映写機 二台(アーク式、シネスコ可能、エルモ社製)
- 幻灯器 一台(一KWランプ用)
- スクリーン巾一〇m、高さ四m
- 場内連絡設備 インターホン(親子並列式) 構内電話
- 設計者 日建設計工事KK
- 施工者 大成建設KK
- 舞台設備 三精輸送機KK
- 舞台照明設備 丸茂電機KK
- 音響設備 松下通信工業KK並に山田吉一
- 映写設備 小花園
- 工事費 一四、七〇〇万円(公民館関係も含む)
- 交通案内 国鉄名古屋駅より名鉄バス・国鉄バスにて記念橋下車(約

瀬戸市民会館 (各階平面図)



所在地 愛知県瀬戸市蔵所町一  
電話 四一九一

所有者 瀬戸市  
所在地 商業地域

建築工期 起工 昭和三年一月五日  
竣工 昭和四年一月一〇日

建築面積 一、六三五坪(約四九五坪)

温湿度調整装置  
観客席 ツースロープ式

一、〇〇〇席(固定席七四七席、補助席二五三席)

控室(楽屋)二室  
約二四坪(約七坪)×二

舞 台  
間口 一四・六m(約八間)、奥行七・五m(約四・五間)、プロセニアムアーチの高さ六・五m(約二一・五尺)、質の子の高さ一・m(約三六尺)

花 道  
上手・下手 各一・五m×五m  
オーケストラピット兼客席 間口 一二m、奥行二m

舞台設備及び備品  
絨帳 一、絞絨帳 一、スクリーン 一(以上電動式)  
ホリゾントバック 白・黒 各一、カスミ幕 四、大道具吊下げ用バトン 六、引割幕一(以上手動式)

金屏風 一、銀屏風 一、毛せん、上敷、所作台(三尺×二尺：一〇枚、三尺×六尺：一〇枚)  
他)、平台(四尺×六尺：一〇枚、二尺×六尺)、支木、演壇(花台付)、指揮台、譜面台三〇、椅子 一〇〇、ピアノ(セミコンサート一台、堅型一台)

ホール電源  
一般電灯用(ロビー、楽屋その他) 五〇KVA×一台、单相三線式

舞台照明用 一〇〇KVA×一台单相三線式  
舞台動力用 二〇〇A 三相三線式

客席照明 白熱灯 一〇〇W×八二灯

調光器 五KW×二台

舞台照明 総主幹 六〇〇A 三P(客席照明分を含む)

負荷回路 八〇回路  
調光回路 二〇A×二回路、四〇A×二回路(三〇KW調光変圧器×二台)

全回路自由選択式プラグ盤  
フットライト 六〇W×七二灯(五・九・十五…四回路)

第一ボールドライライト 一五〇W×六四灯(四十八・四…四回路)

第二ボールドライライト 一五〇W×五六灯(三十八・三…四回路)

第三ボールドライライト 一五〇W×五六灯(三十八・三…四回路)

第一サスペンションライト T型  
第二サスペンションライト T型  
コンセント 二〇A回路×一六

トーマンタル T型コンセント  
二〇A回路×四

サイドギャラリ 上手・下手  
各A型コンセント 五〇A回路×四

フロアーコンセント A型コンセント  
三〇A回路×一四

フロントサイド照明室 四室

各室 一KW(フレネルレンズ付)×二…二回路、一KW(平凸レンズ付)×二…二回路

上手・下手 各一KW(平凸レンズ付)×三…二回路

シーリング投光室 一KW(フレネルレンズ付)×二…三回路

センター照明室 A・C・五〇Aアークスホット  
ライト×一台、五〇A回路×一、二〇A回路×二

その他  
一KW(フレネルレンズ付)×八、一KW(平凸レンズ付)×四、五〇〇W(平凸レンズ付)×五、一KWフラッドライト×二、エフェクトマシン×一、スライドギャラリ×二、エフェクト用ディスク(雲、雪)、稲妻器×一、ミラーボール×一、オーロラマシン×一、ストリップライト×一・八m(一〇〇W×八灯)×四、〇・九m(一〇〇W×四灯)×三

音響設備  
高忠実度立体音響装置  
主増巾器 五〇W×二台

# 四日市市民ホール

所在地 四日市市諏訪町一―二六

電話 五二一八五四〇

所有者 四日市市

所在地 公園緑地

建築工期

起工 昭和三十四年三月二十四日

竣工 昭和三十五年六月二十日

建築面積 延三三五五㎡(二、〇一六坪)

温湿度調整装置

冷房 ターボ冷凍機 一〇〇IP×一台

暖房 ヒートポンプ使用 重油バーナ

燃焼装置併用

観客席 ワンスロープ式

一、二〇一席(固定席)

控室(楽尾) 三室 各三三㎡

舞 台

間口 一八・二m(約一〇間)、奥行

九m(約五間)、プロセニアムアーチ

の高さ 八m、貴の子の高さ 一六m

花道(仮設)

下手 巾 一間、長さ 三間

オーケストラピット

間口 一四m、奥行 四m

舞台設備及び備品

緞帳 一、絞緞帳 一、スクリーン

一(以上電動式)

ホリゾンバック 一、カスミ幕 三、

大道具吊下げ用バトン 一二(内電

動式 三)、引割幕 一、金屏風 一

双、平台(三尺×六尺……三枚、四尺

×六尺……四枚、四尺×八尺……一

枚、六尺×八尺……八枚他)、所作台

(三尺×二尺……二三枚)、演壇

一、花台 二、指揮台 一、譜面台

二〇、椅子 八〇、ピアノ(フルコン

サート 一、堅型 一)

ホール電源

舞台照明用 七五KVA×一台 单相

三線式

客席照明

自然灯 一五〇W×二、一〇〇W×

四二、六〇W×三

平均照度 六〇ルクス

調光器 五KW×二台

舞台照明

総主幹 六〇〇A 三P(客席照明分

を含む)

負荷回路 八八回路

調光回路 四〇A×六回路、三〇A×

三〇回路

全回路自由選択式プラグ盤

二段アレイ式

フットライト 六〇W×八〇灯(四十

一二十四……四回路)

第一ボーダークライト 一五〇W×一〇

四灯(八十一〇十八……四回路)

第二ボーダークライト 一五〇W×九六

灯(七十一〇十七……四回路)

アップパーホリゾントライト用ボーダーク

ライト 一五〇W×八八灯(六十一〇

十六……四回路)

第一ボーダークライト・コンセント

三〇A回路×四

第二ボーダークライト・コンセント

三〇A回路×三

アップパーホリゾントライト・コンセ

三〇A回路×三

三〇A回路×三

他に第一ボーダークライト・第二ボーダ

ークライトに、ボーダークライト回路をス

イッチ切替えに依りコンセント回路と

して利用できるもの、各四回路あり。

フロアーコンセント

三〇A回路×二

フロントサイド照明室 四室

各室 一KW(フレネルレンズ付)

×二……二回路、一KW(平凸レン

ズ付)×二……二回路

シーリング照明室

T型コンセント 三〇A回路×五、

A型コンセント 三〇A回路×一、

一KW(フレネルレンズ付)×八

台、一KW(平凸レンズ付)×三台、

一KWランプピンスポットライト×

一台

舞台に対する附角

舞台前縁へ 五五度

中央へ 四三度

奥へ 三五度

センター照明室(映写室共用)

A・C・五〇Aアークスポットライ

ト×二台

その他

一KW(フレネルレンズ付)×四台、

一KW(平凸レンズ付)×六台、

五〇〇W(平凸レンズ付)×四台、

五〇〇W(フレネルレンズ付)×四

台、五〇〇Wフットスポットライト

(フレネルレンズ付)×六台、エフ

エクトマシニング一台、リップルマシ

ニング一台、エフェクト用ディスク

(雨・荒雲・雪各一)、エフェクト用

オブジェクティブレンズ(四時・六

時・八時・一〇時各二、二〇時×

一)、ミラーボール×一台、オーロ

ラマシニング一台

ストリップライト 二・七m×四、

一・八m×六、〇・九m×四

音響設備

高忠実立体音響装置

主増巾器 五〇W×三台

調整卓 二チャンネル×一台(マイク

入力×八、ライン入力×四、ライン

インピーダンス 六〇〇Ω、音質調

## 整増巾器付)

ワイヤレスマイクホン 一チャンネル

ル

効果用スピーカー×一

テープレコーダー ステレオ式×一台

、半巾録音式×一台

レコードプレーヤー 四スピード・ス

テレオ×二台

マイクホン ベロシティ型×三、ダ

イナミック型×七

マイクホン昇降装置 一ヶ所

## 映写設備

一六mm映写機×二台(アーク式、シネ

スコ可能、エルモ社製)

スクリーン 巾一〇・一m、高さ

三・七m

## 館内連絡設備

インターホン 一系列

設計者 日建設計工務KK

施工者 戸田組

舞台設備 東宝舞台設備KK

舞台照明設備 丸茂電機KK

音響設備 北三重ナショナルKK

映写設備 小花園ムービー商会

工事費 一五、〇〇〇万円

交通案内 国鉄四日市駅下車西へ一〇

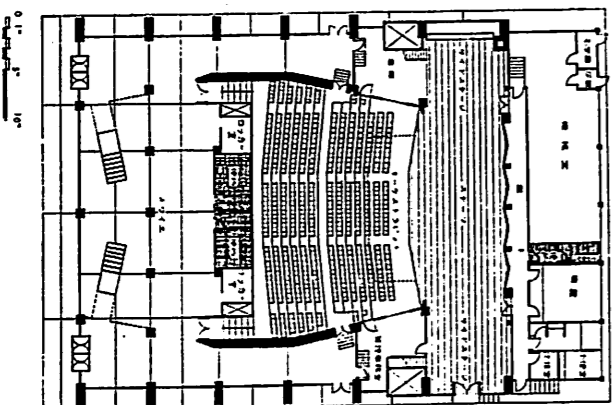
分、近鉄四日市駅下車東へ一〇分(づ

づれも徒歩)

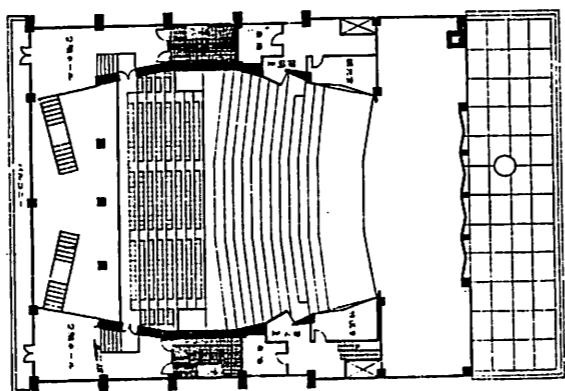
建設の沿革 市制六〇周年施行記念事業

の一環として建設。

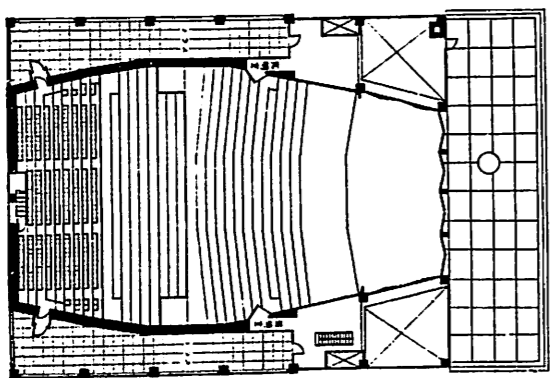
1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図







# 中電ホール

所在地 名古屋市東区東新町一〇番地  
の1(中電ビル内)

電話 九七一六一七四

所有者 中電ビル株式会社  
所在地 商業地域  
建築工期

起工 昭和三十五年十一月九日  
竣工 昭和三十八年四月二十五日

温湿度調整装置

観客席 ワンスロープ式

五〇〇席(固定席四六一席、  
補助席三十九席)

控室(楽屋)

和室 一室(一八・六m)  
洋室 一室(四二・五m)

舞台

間口 二二・五m、奥行 六・二m、  
プロセニアムアーチの高さ 七・五m、  
箕の子の高さ 一三m

花道

下手 三・四m×一・五m

舞台設備及び備品

絞綫帳 一、引割綫帳 一、スクリー  
ン 一、中割幕 一、定式幕 一(以  
上電動式)  
カスミ幕 三、大道具吊下げ用バトン

四、バックスクリーン 一(以上手  
動式)

音響反響板、松羽目、金屏風 二双、  
銀屏風 一、所作台、排毛せん、上  
敷、音楽台、演壇、指揮台、椅子  
一〇〇、ピアノ(フルコンサート  
一、グランド型 一)

ホール電源

一般電灯用(ロビー・楽屋その他)  
五〇KV A×一合 三相四線式

舞台照明用  
五〇KV A×三合 三相四線式

客席照明用  
一四三KV A×三合 三相四線式

舞台動力用  
四四〇V 三相三線式

客席照明

蛍光灯 赤色 四〇W×二四灯

青色 四〇W×二四灯

緑色 四〇W×二五灯

白色 四〇W×二九三灯

(間接) 四〇W×八六灯

調光器(オートトランスフオーマー・  
マグネットクラッチ式)

赤色灯用 二〇KW×二合

青色灯用 二〇KW×二合

ミュージカルショー等に於て、音響効  
果を十分に發揮出来るよう、音像動  
が出来、しかも平面的なもの、直  
線的なもの等数種のもが設置して  
ある。

主調整卓 一(HA×一〇、BA×六  
、MA×一)

副調整卓 一(HA×一、他にワイ  
ヤレス、音像移動、翻訳装置調整  
部)

電力増巾架 二(二〇W×二)

電源架 一(二四V……三A安定化電  
源×八)

雑架 一(ラチオチューナー・効果  
用増巾器一五W×二)

ワイヤレスマイクロホン 四チャンネ  
ル

残響付加装置 一(磁気ドラム式、フ  
リップ社製)

テープレコーダー 三チャンネル用×  
一、二チャンネル用×一、一チャン  
ネル用×一

翻訳装置用誘導送信機 一(五チャン  
ネル、四ヶ国語用)

マイクロホン 単一指向性マイク×一  
八、超指向性マイク×三、無指向性  
マイク×九

ワイヤレス移動型アンテナ 二

吊りマイクロホン装置 四ヶ所

マイクロホン昇降装置 三ヶ所

映写設備

緑色灯用 八KW×二合  
間接灯用 一五KW×三合  
自動循環 一五KW×一合

舞台照明  
総主幹 NFB六〇〇A 三P

負荷回路 一〇四回路

調光回路 SCR調光ユニット三〇A  
×七二回路(内五九回路固定、一三  
回路選択)

負荷回路選択盤 プラグコード回路×  
四四

選択直回路 一四個 七回路

七二列三段のプリセットフェーダーに  
より七二回路三段のプリセットが行へ  
る。

照明操作卓及びグループフェーダー  
各グループ(二グループ)毎に三  
列計三三個

グループマスターフェーダー 一個

クロスフェーダー 一組

調光プリセット段切替ボタン二組

グループフェーダーにより各段毎に  
各グループを一括調光し、プリセッ  
ト盤のプリセット解除ボタンにより  
プリセットからはずされた回路及び  
グループマスターフェーダーにより  
調光出来る。

クロスフェーダーにより調光プリセ  
ット回路に接続された回路のフェー  
ドイン・フェードアウトが出来、プ  
リセット段切替ボタンにより三段の

プリセットの選択を行い、調光プリ  
セット回路に接続された回路の一括  
場面スイッチイン・カットアウトが  
出来、第一段より第二段へのクロス  
フェードが出来る。

フットライト 六〇W×六〇灯(四回  
路)

花道フットライト 六〇W×二四灯(二回路)

第一ボーダーライト 一五〇W×六四  
灯(四十八十四……四回路)

第二ボーダーライト 一五〇W×六四  
灯(四十八十四……四回路)、(T型  
コンセント 二〇A回路×一付)

サスペンションライト

T型コンセント 二〇A回路×八

アップパーホリズントライト 一五〇W  
×九六灯(四十八十四……六回路)

サイドギャラリ A型コンセント  
二〇A回路×四

フロアコンセント A型コンセント  
二〇A回路×一五、五〇A回路×一

箕の子アップ A型コンセント 二  
〇A回路×三

フロントサイド照明室 二室

各室 一KW(フネルレンズ付)  
×二……二回路、一KW(平凸レン  
ズ付)×二……二回路、A・C・五  
〇Aアークスポットライト×一合  
シーリング照明室

T型コンセント 二〇A回路×一〇

舞台設備 三精輸送機KK

舞台照明設備 東京芝浦電気KK

丸茂電機KK

音響設備 松下通信工業KK

映写設備 小花園ムービー商会

交通案内 国鉄名古屋駅より地下鉄栄  
町下車東へ徒歩五分、又は市電・市バ  
スにて東新町下車北西角中電ビル二階

幻灯器

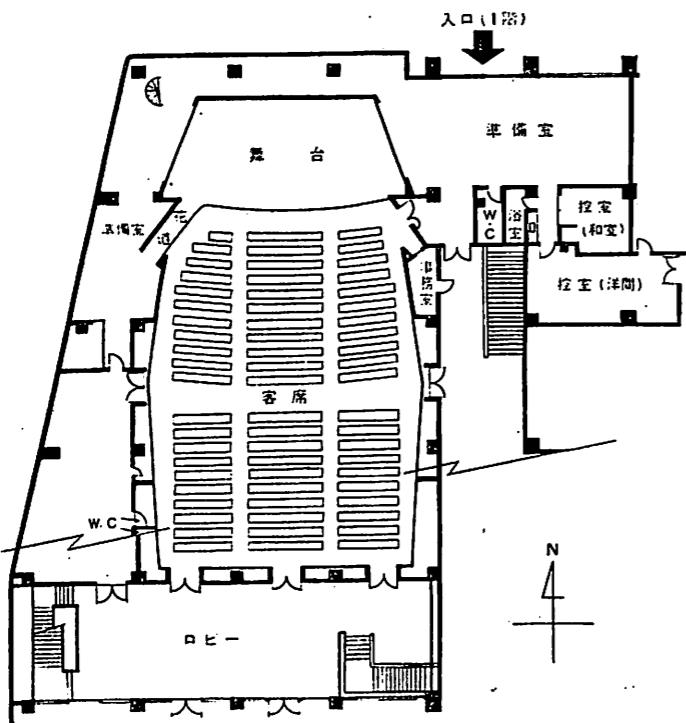
場内連絡設備

インターホン(親×二、子×一九)

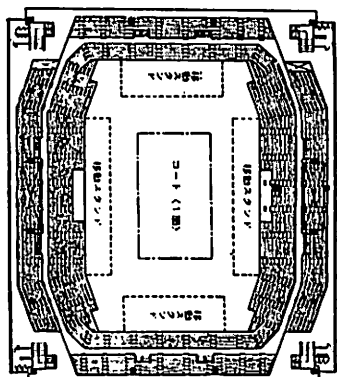
設計者 日建設計工務KK

施工者 鹿島建設KK

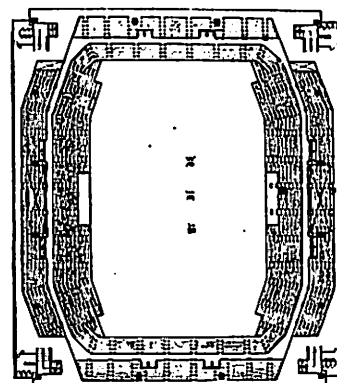
中電ホール見取図



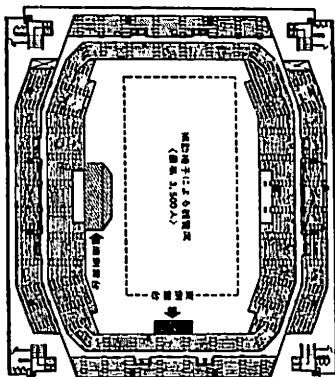
競技〈催物〉種目別観覧席配置図(第1競技場)



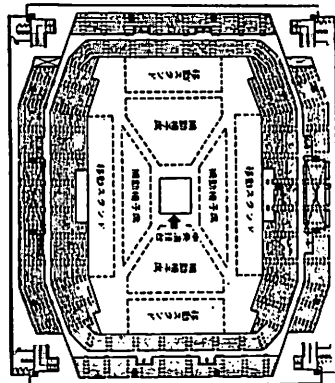
A 競技場全面使用の場合  
観覧席 一・三階固定席四、四九〇人  
二階移動スタンド一、七〇四人



B コート(試合)一面使用の場合  
観覧席 一階移動スタンド一、七〇四人  
二・三階固定席四、四九〇人

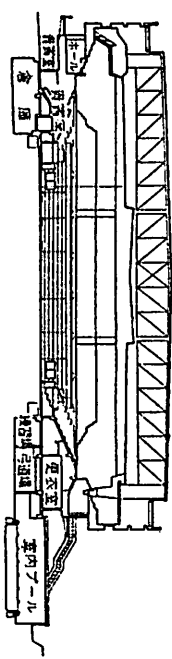
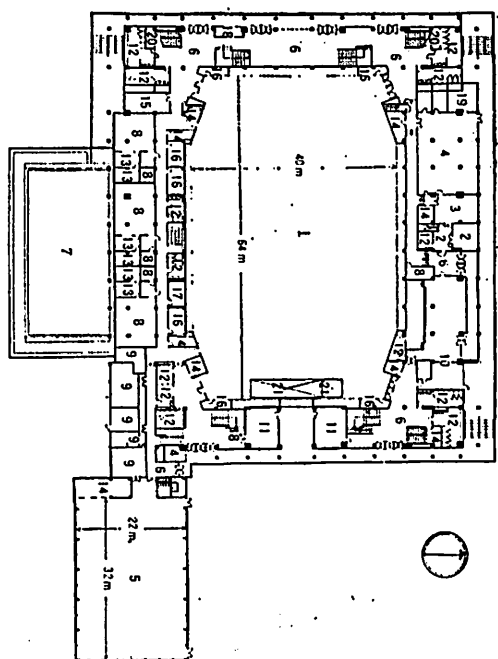


C 中央競技合(舞合)使用の場合  
観覧席 一階移動スタンド一、七〇四人  
二・三階固定席四、四九〇人



D 舞合使用の場合  
観覧席 一階補助椅子席三、五〇〇人(舞合側)  
二・三階固定席三、二〇〇人

1階平面図



- 1. 第1 競技場
- 2. 第2 競技場
- 3. 第3 競技場
- 4. 第4 競技場
- 5. 第5 競技場
- 6. 第6 競技場
- 7. 第7 競技場
- 8. 第8 競技場
- 9. 第9 競技場
- 10. 第10 競技場
- 11. 第11 競技場
- 12. 第12 競技場
- 13. 第13 競技場
- 14. 第14 競技場
- 15. 第15 競技場
- 16. 第16 競技場
- 17. 第17 競技場
- 18. 第18 競技場
- 19. 第19 競技場
- 20. 第20 競技場
- 21. 第21 競技場

**所在地** 名古屋市中区南外堀町六一  
**電話** 九七二一五二六九  
**所有者** 愛知県 公園緑地  
**建築工期** 起工 昭和三十八年一月十九日  
 竣工 昭和三十九年九月十日  
**建築面積** 本館 六七二㎡(二七坪)  
 小体育館 七九二㎡(三〇坪)  
**温度調整装置** 冷房 ターボ冷凍機 三五〇冷庫ト  
 ×一台  
 暖房 8P 2 暖房ボイラー×三台  
 養蚕盤 五・一トソ/時  
**収容人員** 第一競技場 二・三階固定席 四、四九〇人  
 移動スタンド席 一、七〇四人  
 一階補助椅子席 三五〇人(最大)  
 計九、六九四人(最大)  
 第二競技場 一階椅子席 五〇〇人(最大)  
 二階椅子席 五〇〇人(最大)  
 控室 三室

愛知県体育館

**場内連絡設備** インターホン(電話式)×九系統  
**館内電話** 其他  
**その他の設備** 常備プール(二五七ト、年中無休)、弓道場、相撲練習場、ボクシング練習場、サキート、トレーニング場、各種体育器具(体操、バスケット、ボール及びバレー、二面・卓球、バドミントン、ハンドボール、テニスその他)  
**特徴** 多目的使用のため、舞合・観覧及びその他の種、ボクシング・ホリゾン  
 の他の種、ボクシング・ホリゾン  
 トライトは、全てその都度取付・取外しを行なう。  
**設計者** 中山克己建築設計事務所  
**施工者** 戸田建設KX  
**リフト・吊物設備** 三精輸送機KK  
**舞合照明設備** バグナルKK  
**音響設備** 不二音響テレビKK  
**交通案内** 国鉄名古屋駅よりバス市役所前または名城閣下車 徒歩約五分  
**建設の沿革** オリンピック東京大会の記念事業として企画設計された。

**舞台設備**  
 主増巾器 五〇W×七台  
 調整車 アイク入カ×三、ワイヤレス  
 アイク入カ×四、ライノ入カ×二  
 ラインインピタンス六〇〇Ω  
 ピーター 一〇〇W×三台、三〇W×一台  
 ×一台  
 レコトグラフィー 一台  
 テレプロコクター 一台  
 アクロホン、ペロシナイ型×九ダ  
 イナミック型×七、内ハンドマイク型×二

**観光回路** 三〇A×二回路  
**フットライト** 六〇W九灯付×八(三回路)  
 ボイダライト  
 一五〇W二灯付×六(三回路)  
**ホリゾンライト** 一五〇W九灯付×四、一五〇W一灯×二(九回路)  
**ホール** 二(九回路)  
**サスシヨソライト** T型コンセント一〇A×三六分(八回路) 以上標準式  
**スポットライト** 一KW(フレネルレンズ付)×九台  
 一〇〇W(フレネルレンズ付)×九台  
 一KW(平凸レンズ付)×九台  
**セクタライト** A.C.三〇Aトランスボックスタイ  
**ト×台** 舞台設備

# 刈谷市民会館

所在地 刈谷市東陽町一ノ一

所有者 刈谷市

所在地域 官公署地域

建築工期

起工 昭和三十九年十月五日

竣工 昭和四十年十二月五日

建築面積 延五〇二〇㎡ (一五一九坪)

温湿度調整装置

観客席 ワンスロープ式

一五二〇席(固定席二二三四席・補助席二九六席)

控室(楽屋)

大 二室(一・二階 和洋)一〇八㎡

約五〇名収容

中 四室(一・二階和洋)一一八㎡

約六〇名収容

浴室 二室(地階)

舞台

間口 二二m(約二一・七間)、奥行

一〇m(約五・六間)、プロセニアム

アーチの高さ 八m(約二六尺)、策

の子の高さ 一七m(約五六尺)

大迫り 一台 一〇m(約五・六間)

×三m(約一・四間)

小迫り 一台 三m(約一・四間) ×

二m(約一間)

花道

上手 下手 各二m(約一間) × 五m

(約一・八間)

オーケストラピット

間口 一七・五m(約五八尺)、奥行

三m(約一〇尺)

舞台設備及び備品

絨毯 二、絞絨毯 一、定式幕、スク

リーン、音響反響板、大黒幕、袖幕

四、カスミ幕 四、中割幕 二、ホリ

ソントバック、大道具吊下げ用パト

ン、能舞台(破風付)、金屏風 一

双、大太鼓、どら、毛せん、上敷、所

作台(二尺×三尺 三五枚、九尺×

四尺 三枚他)、平台(三尺×三尺

二枚、三尺×六尺 一枚、六尺×九

尺×二枚)、支木、演壇(花台付)

、オーケストラ用ひな壇、指揮台、譜

面台 一〇〇(内電灯付 五〇)、椅

子 五〇、ピアノ(フルコンサート

一台)

ホール電源(専用変電室)

一般電灯用(ロビー・楽屋その他)

七五KVA×一台、単相三線式

舞台客席照明用

一〇〇KVA×一台 単相三線式、

舞台動力用

一五〇KVA×一台 三相三線式

客席照明

白熱灯 一〇〇W×六四灯

平均照度 三五ルクス

調光器 七・五KW×一台、五KW×

一台

舞台照明

総主幹 六〇〇A 三P (客席照明分

を含む)

負荷回路 一一七回路

調光回路 三〇A×五六回路(二〇K、

W変圧器×八台)

全回路自由選択式フラグ盤

二段プレセット式

フットライト 六〇W×二〇灯(六

十一・五十六…四回路)

第一ポーターライト 一五〇W×九六

灯(六十一・二十六…四回路)、(T

型一〇A回路×一付)

第二ポーターライト 一五〇W×八八

灯(五十一・二十五…四回路)、(T

型一〇A回路×三付)

第三ポーターライト 一五〇W×八八

灯(五十一・二十五…四回路)、(T

型一〇A回路×三付)

サスペンションライト T型一〇A回

路×八)

アップパーホルンソントライト 二〇〇W

×七〇灯(七十七…五回路)

フロアーコンセント A型コンセント

三〇A回路×一九

フロントサイド投光室(三階) 各家

一KW×四

マグノカラーチェンジャー×四

フロントサイド投光室(二階) 各家

一KW×六

シーリング投光室

一KW×二…八回路

マグノカラーチェンジャー×一六

A型コンセント三〇A回路×二

センター投光室

D・C・五〇Aピンアークスポット

ライト×二、A・C・五〇Aアーク

スポットライト×二

その他

一KW×一〇、エフェクトマシン×

二、一KWプロジェクトター×二、オ

ーロラマシン、火焰マシン、オブジ

ェクティブレンズ(六吋、八吋、一

〇吋各二)、ミラーボール、稲妻器

×二、虹投射器、ストリップライト

(一・八m 八灯用×六、〇・九m

四灯用×六)、ローホルンソントライ

ト(二〇〇W 二灯用×六)、プ

レンカード×二

音響設備

主増巾器 六〇W×一台、三〇W×四

調整卓 四チャンネル×一台(マイク

入力×一四、ライン入力×四、補助

入力×四、ラインインピーダンス

六〇〇Ω  
ワイヤレスマイクロホン 四チャンネル  
効果用スピーカー×二  
レコードプレーヤー 二連式×一  
テープレコーダー ステレオ式×二、  
半巾録音式×一  
マイクロホン ベロシティー型×七、  
ダイナミック型×四  
マイクロホン昇降装置 三ヶ所  
映写設備  
三五%映写機 一式  
一六%映写機 二台(アーキ式、シネ  
スコ可能)  
幻灯器 一(アーキ式)  
スクリーン 巾二・三m 高さ五・  
三m  
場内連絡設備  
インターホン(親子式)×四系統  
設計者 KK竹中工務店  
施工者 KK竹中工務店  
舞台設備 森平舞台機構KK  
舞台照明設備 丸茂電機KK  
音響設備 松下電器産業KK  
工事費 三五六、一四二千円  
交通案内 国鉄刈谷駅南口より西へ徒歩  
にて五分  
ホールの設備 会議室 一、結婚会場、  
披露宴会室 二、喫茶室  
建設の沿革 市制十五周年事業として建  
設。

## 各種娯楽機械 舞台設備

設計 施工

東京都知事登録(と)第16269号

# 富士工業株式会社

東京都板橋区若木町1の26の13号 電話 東京(933)1503・1504

(後記) 以上の中に御園座、三重県文化会館(津市)が資料の関係で掲載ができません、残念ながら次の機会にゆずることをおわびします。

さて以上、当地方の各ホールを不十分ながら、紹介してまいりましたが、ここで気付いた点を「三」とりあげてみたいと思います。

まず建物は誠に立派である、ロビー、客席等も大変立派である、しかし一歩内へまわったとき、舞台人としてみたとき不満な点が多々あるのに気付く。照明設備として、舞台照明用の電源設備が共通して不十分である。貸ホールの場合、その多くが公共施設であるため、その利用される範囲、催物の範囲が非常に広い。最近できるホールは全て舞台が特に舞台間口が大変広くできている。しかし舞台は広くなくても、その照明に要する照明設備は少しも多くなっていない。設備は一応このついでに、今度はその配置位置が考慮されていない。特に調光操作室・各投光室の位置が悪い。舞台へ充分投光できないような位置の投光室、舞台が満足に見えないような調光操作室では、全くその価値がないといつても過言ではあるまい。各照明器具についても二十人も収容する観客席をもつ大ホールも、千人程度のホールも、同じ照明器具を使用しているのが現状である。

これなども一考を要する点であろう。舞台設備についても同じである。吊バントンの数を多くするあまり、その間隔が考慮されていない。使用できないものならはじめからないほうがよい。そのことは特に舞台備品についていえる。一例をあげると、例えばプラットフォームの寸法があるはずである。舞台がある以上、平台が必要である。そこまではよいが、さて作る段になってその寸法がまちまちでは困る。他から入るものがあると思つて、持っていかなかったら、あるいはあったが使えなかったでは話にもならない(こういった次第からこの紹介特集では平台についてはその寸法の記入を省略した)。使用度数があまりないと思われ、立派な設備がしてあったり、こういうことが大変多いのは誠に思わないことである。音響設備・映写設備もまた然りである。大ホール・中ホール・小ホールの区別が配慮されていない。小ホールに大ホールの設備をするのはまだしも、大ホールが小ホールの設備では全く困る。

他にないような特色をもつたものをつくろう、これは誰しも思うことである。設計は立派にできた。そこで行きつまるのが予算である。そして削られるのはみえないところ、つまり舞台関係である。しかし他所にない特色をいかにするために、使うことのもう一つは、そのしわ寄せが費用をかける、そしてそのしわ寄せが照明設備等にやってくる。そういうことではないだろうか。全く本末転倒とこのことである。ここでいうまでもないことであるが、ホールとは何をすることをあるか、もう一度思い出して欲しいと思う。ホールとは舞台があり、舞台上演されるものを観るところである。学校の講堂や村の公民館とは違う。舞台上演されるものを観る、そのためには立派なものが演ぜられねばならない。そのためにはよい舞台設備が必要だと思つて、いくら建物がよくて、客席が立派でも、舞台設備がよくなくては、よいものを観ることはできないと思つた。また貸ホールの大半は公共施設である。公共施設なるが故に、無駄な設備はしないようにすべきだと思つた。貸ホール、特に公共ホールの場合、その利用範囲からみて、特定の面のみの特色は必要ないと思つた。一つだけすばらしい特徴があつても、そのために他の面で不便になるようなことがあつては却つていけないことである。全て

の点で八〇点のつけられるホール、それが満点のホールであると思つた。そうならどうしたらよいホールができるか。どういったホールが理想なホールなのか、われわれは考えてみる必要があると思つた。今までは、ホールの建設は、施工者、建築家任せであつた。また現在も大半はそうである。そして舞台照明家はじめ裏方と呼ばれるものは、でき上ったものをまかされるのであつて、せいぜいでき上ったものに対し、批判するぐらいが関の山であつた。それでは決してよいものではないと思つた。それがよいか悪いか、どうしたらよくなるか、それは使つたものが一番よく知っていることである。その意味において、これからはでき上ったものを使うのではなく、自分たちが考え、そして作っていく心構えが必要だと思つた。それだけでなく、設備きない。先年来、協議会の中にも、設備基準作成委員会、あるいはテキストブック作成委員会できたことは、誠に慶しいことである。大いに期待する次第である。

私の履歴書

(続)

柘植貞輝

昭和十三年一月九日、福井県鯖江歩兵第三十六聯隊第二中隊に補充兵として入隊、一つ星の生活が始まった。田舎町の町はずれ、田んぼの中の古い兵営は、今までの華やいだ都会の、しかもレビニュー劇場の生活とはおおよそ何の連繋もない、男くささ、汗くささのみであつた。ここで何より閉口したことは「楽音」から遮断された生活だつた。旧軍隊でも音楽隊をもつていたのに、何故音楽は弱兵を生むと考へていたのだろう。兵営生活の中で聞いた「楽音」としては消灯ラップだけであつた。「号音」だけだつた。「美しいもの」それは「柔弱」と同義語であつた。

つらかつたのは夜九時に寝ること。これまでの私の生活では仕事の最中(劇場のハネは十時及至十時半だつた)であつたからである。この聯隊の生活は入隊した年の八月いっばいまでであつた。この間の思い出としては私より一期(三ヶ月)遅れて入隊した宇野重吉が「新協の宇野重吉であります」と、二つ星になった私のところへ挨拶に来た事、雪深い北陸の冬(この冬

は大雪だつた)の冷たさと、毎日の重い軍装で遂に「ち」と「ヘルニヤ」を悪化させて陸軍病院に入院し六、七月を病床に過した。そしてそのおかげで山西省方面にも漢口方面にもつれて行かれずじやうだつた。八月病癒えて兵営にもどつた時兵営は名実共に留守隊だつた。そしてやがて九月一日東京小石川の陸軍工科学校(今の後樂園スタジアム一帯)に分遣された。この日の夜明けまでは東京が大台風に見舞われて、掘端の柳の大木さえほとんど押し倒されていたのを覚えていた。台風なぞ何のその。古巣東京にもどつた喜びは兵役解除ぐらゐに感じていたものであつた。落付いた所は今の米軍基地相模原ではあつたが、日照毎の外出はいつも起床と同時に出門、夕方まで東京の空気を思うさま吸って歩いた。ここで古巣東京に立寄るうちに、私が入隊してから入社した若尾正也と鮫島隆子の二人を知つたのである。そしてこの二人が結婚し今日しっかりと名古屋に根を下し、舞台会社と劇団とを両立させる様になつた。

戦前の東京としての良き頃の最後の時期ではなかつたらうか。まだ物資不足が日常生活にまで余りひびいてはなかつた頃だつた。昭和十四年の末、工科学校を修了した船輪送司令部に配属となり、対米英戦機となった十八年夏までをここに過し、再び東京にもどつて陸軍行政本部付になったのだが、この広島配属中の思い出の二・三は次の様なものである。統々と帰つて来る大陸での戦死者の遺骨。その度に催される慰霊祭。神式仏式両方の慰霊の進行は、名前は忘れたがやはり召集将校であるが僧職出身者と、劇場の裏方出身である私のコンビでまさしくに適役だつた。場所は船輪送司令部の中の凱戦館の舞台。あとを断たぬこの悲しむべき行事は一月月に一度ぐらゐは必ず行われた。

又占領地慰問に出かける芸能人が出発に先立ってこの同じ凱戦館の舞台で、宇品港に寄港中の陸軍輸送船の船員達を慰問する演芸会も私の仕事のひとつだつた。これもすい分やらされた。しかし何といつても忘れられないのは十六年秋、私達は上陸作戦器材の整備上知らされていた十二月早々の南方大作戦のその一ヶ月前頃、日劇ダンシングチーム(その頃は日劇舞踊隊と称した)が佐谷功、横川信幸等に引率され、歌手橋本を含めて仏領インドシナ(今のベトナム)に向うため宇品に来て輸送船に乗つた時、船に乗つてから必要品と思つた、当時広島でも品不足になつてアルミの湯呑みコップ等を買集めて彼女達の乗り込んだ輸送船に届けたことだ。もし予定の大作戦が失敗したら、いや成功しても作戦が発展したら、彼女等は故国の土をいつかふむことができるのだろうか。年が明けて一ヶ月ぐらゐして無事彼女らが帰つてきた。彼女たちが精進に演じさせられた真実の軍事上の役目も知らないで、船輪送司令部での心残りになつたことは、凱戦館の舞台らしい設備に改造する仕事の立消えであつた。丸茂電機から型録等送つてもらい、図面も作つたのだが、司令官が更迭されて、はいそれまでとなつてしまつた。十八年夏東京にもどり、十九年十二月召集解除から取戦の秋まで全て「空」。

# 私の思うこと

● 私の思うこと

## 私的「照明論」への試み

マイケル・ベントール氏演出に依るロミオとジュリエットの照明に関連して

東京サンケイホール  
岩品健介

私は、今、俄勉強よろしく、会報№2を読み返し、新劇六月号のロミオに関するものをみている。  
少しでも、体裁の良いものを書き度いと思つてはいるからですが、技術的なもの或いは、ロミオとジュリエットの照明プランについては、「劇団雲」の照明責任者としての浅沼氏の方が、より適切であることは自明の理であり、又、阿部氏の私に対する注文の肝は、おそらく、私から、従来の照明プラン乃至技術に関する記述を求めているとは思えないので、私は私なりに私論をまとめてみようと思つています。

「舞台照明とは、作品の内容に即し、演出者の意図に従い、しかも、装置、衣裳、を観せてもらったが、言葉がわからないので、その解説と動きで察するより仕方なかったし、照明は簡略で、おそらく設備のない処でも出来る様にしてあるらしいと思われるのだが、それよりもむしろ、文京公会堂でみた俳優座の「三文オペラ」でたしかにプレヒトの異化作用なる語を、私なりに知ることが出来たのです。

プレヒトの叙事的演劇論がスタニスラフスキー・システムとモスクワ芸術座の克服から生れたものであるとすれば、そして私はスタニスラフスキー・システムを徹底した写実主義より生じた写実を超えた自然主義リアリズムの所産であるとするならば、透徹した自然主義リアリズムは遂に様式化して、千田氏の云う幻影舞台を創りあげることになったものと思つています。そして照明も当然その方法に根拠を置いている様に思つています。

舞台芸術が比喩では演劇が人間存在を追求し、まさぐる芸術であるとするれば、照明もそれに参加しなければなりません。そしてかつて先輩諸氏がよく云われたような照明の独自性に依り、舞台の中に埋没するのではなく、云いかえれば、照明が目立つ様ではいけない、と云われる人がいるでしょう。――勿論、本当に良い照明はごく自然の中に観客にうけ容れられる可きは申すまでもありません。併し、只単に消化されてしまふ様では、どこに照明家の意志的創造があると思つていますか。照明家は作品内容や、演出意図や、諸々の制約の中で、それ等を十分に満足させねばなりません。しかし、その上で、充分に己の意図する方向に向つて、つまり存在に向つて、観客の前に顕現してゆかねばならない使命をもつています。そこに照明のみがもつ、ものを照らし出すと云う本性がある様に思つています。如何に立派な装置も、如何に達者な演技陣も、如何に美しい音楽の流れも、その照明のもつ色光の綾なす表現がなければ、すぐれた自己を顕わすことは出来ないのです。それだけに照明の方法も、演劇の方法と共に進化しなければ、今日の演劇の足を引っ張ることになりかねないでしょう。

結論を云えば、マイケル・ベントール氏は照明においても西欧の伝統を生かして、千田氏の云われた様な動的方法を採りました。つまり、建築学で云う西欧の機能的な生活空間を事件の推移と共に見事に照し出したのです。そしてその最も顕著な実例はバルコニーでのロミオとジュリエットの長い語り合いの場で、ロミオは尽きせぬ恋の炎を燃し下ら庭園の暗の中に去つて行きます。そして、バルコニーの上方からさす一条の光はロミオを見送るかの様に消えてドーン帳が下ります。これは我々のよく使う月光サスの手法より、より動的、時間的処理なのです。つまり、日本人の感覚からする自然観的手法ではなくて、そこに芝居があるから一条の光が当るのです。日本人的に云えば、大抵の場合月光の中に人が立つので、人の上に月光がさすのではないと云うこと

音楽、音響効果等々、一切の総合芸術の各分野の独自性を配慮し、舞台芸術作品の進行する場の設定に、尤も適した時間的空間的光の構成である」とでも云えよう。  
勿論、自己の照明芸術観、それを世界観と云つてもいい、を、より完全に、舞台芸術の時空の中に、創造的に表現するのです。

会報№2に千田是也氏が「新しい照明の役割」と題して、一文を寄せられていたが、本心に尤もなものであった。  
特に、千田氏がプレヒトを出し、更に照明が単に空間を照らす、静止した光ではなくて、舞台上に重要な動きを作り「照明が演技し、行動する」と云うことが、演劇の時間芸術として自覚が高まるにつれ、今後一層重要になって来るだろうと考えます」と云われる時、私はたまらなく嬉しくなつたのです。  
そして産経ホール（大手町）開場以来、外来の作品に接して来た私は、再びかつての印象ある舞台を思い浮かべています。

その年代は不随年、モダン・バレエでは、マーサー・グラハム、ホセ・リモン、歌劇のイタリー・オペラ、パントマイムのマルセル・マルソー、更にはジャン・ルイ・パローの引率「クリストファ・コロンブス」の見事な照明、モスクワ芸術座の「桜の園」と諸作品「ロミオとジュリエット」のマイケル・ベントール氏指導に依る照明等々。就中、モスクワ芸術座を観ることによって、スタニスラフスキーの実際を教えられ、「クリストファ・コロンブス」を手伝うことによって、岸田國士がその紹介に力を尽されたフランス演劇の一端にふれることが出来た様に思つています。そしてこれは産経とは別に、ドイツ演劇は、日経ホールの二日目、「銀河……」（題名を忘れた）

を私は強調したい。そこが又、スタニスラフスキーとプレヒトとの相違を連想します。つまり、自然主義はもうとくに卒業してはいるのです。だからこそ芝居に不要な照明は何一つないのです。芝居の時間的流れの中で、その時々々に必要にせまられた生活空間の上のみに光は投射されるのです。「クリストファ・コロンブス」の時もそうでした。後者の方はもっと様式化され、象徴的にさえなつていました。作品の書かれた時代に依るのでしよう。そしてちなみに、ホセ・リモンの場合は、あきらかにプレヒト的照明法を使いました。勿論、照明器具も特別出演しました。カラー・デザイナーである彼（名前を忘れた）すらも一つの点景的要素となつて特出したのです。

正直のところ、私は見えがかりだけの新しさには嫌気さえ覚える性質なので、如何にプレヒトといえども、特出の技法を真似て貰いたくないと思つています。一度「三文オペラ」で俳優座がプレヒトを打ち出すと、TV関係でも、プロダクション関係でも、つまらない処でやたらとポスターを観客に見せてみたり、スポットを舞台に出して得意になつてはいる風で、嫌な気がしたのをまだ覚えています。即ち内容からくる必然性を重視した結果ではなくて、単なる新らしがりやからくる模倣なので、プレヒトが長い間かかって克服した様として切実な程迄に苦しい演劇を人生に賭けた道程を忘れていく様な気がしてなりません。――その意味でモスクワ芸術座がスタニスラフスキーを私に実感から教えてくれたのと同様に、千田氏と俳優座は本場のプレヒトを教えて呉れたと私は思つています。念のために――

そして、氏の云われる様に、すべての演劇が叙事的演劇になつてしまふのもどうかと思つています。  
唯、私の云わんとすることは西欧的物の考えを研究し、西欧の文化の歴史に目を向け、本場の意味でのスタニスラフスキーなり、プレヒトの異化作用なりを理解して戴きたいのです。そうでなくて、どうしてすぐれた日本の文化の遺産を現代に生かすことが出来るでしょうか。和辻哲郎の「風土」が示す様に、矢内原伊作が最近の産経新聞に庭石のことについて書かれた様に、牧草地帯に建てられた石の建築文化に対して、季節風地帯であり火山帯である極東の島国日本の、しかも、木と竹とでつくられた建物の中に生活して来た我々との文化の相違は、自然に挑戦した彼と、同化した我々との互いにすぐれた特色ある文化を今日に残したのではないのでしょうか。

照明は或る程度、舞台装置に依つて決定をよぎなくされます。例えば、旧劇であれば新派にしても、新劇にしても、歌舞伎は勿論のこと、舞台がほばまきまつています。舞台は我々の住む家と寸法が同じなのです。そして舞台は篠原一男の住宅建築

(紀伊國屋新書)に依れば、分割された無機質的空間だと云われるのです。西欧の連結された、有機的空間の建築様式に比較すれば空間を充たす照明も、従って相違して来るではありませんか。つまり、現代の建築には生活するに適した場をもつことが要求されます。即ち、キッキング・ルームと、寝室と座敷と、我々がいつも夢みているのは、二DKなり三DKに当選することではないでしょうか。ところが、日本のすぐれた文化的建築物は、その昔、高貴の人々の居処であり、政務を司る処であった。したがって、そこには働く人々のためにつくられた近代的配慮に欠けているというのである。だから、西欧の同時代の建築物と対比して、実用的に出来てはいなかったと云うのである。併し、それでは日本の歴史的建築物はどうして世界の注目を浴びているのであろうか。再び、篠原一男は日本の建築空間を西欧の機能的な生活空間に対して、無機質の虚空という言葉で表現されている。単なる「無」イコール「ナッシング」ではないというのである。亀井勝一郎の日本人の精神構造の中でも、旺んに無常観ということ云われていると思つた。

それならば我々の照明にも民族的な美意識として、空無なる美的感情が支えになつていく場合があるのではなからうか。その尤も端的な例として、我々は当然の様にL・Hを使い地平線的美を表現しているのではないか。ロミオ等でも無限に続くであろう地平の美としてのL・Hを使用した様には感じなかったのである。これももう数年前になる。明治座に新国劇を觀に行つたことがある。その時の川のせせらぎが、まことに飯橋のビニールの川にさざ波の如く光つて自然主義を超えた美しさがあったのを、その演物を忘れた現在でもよく覚えていゝる。そして他にも、ツララに星球を配して、ツララが朝日に光る手法がとても綺麗だった。これは息子がアルプスで遭難する筋の山のひなびた旅宿の景であつたか。共に小川先生の仕事であつた。十年前、私が研究所に入つたばかりの頃、松崎先生の仕事を飛行館を見に行つた。ただの見学だから何と解らなかつたのであるが、日舞の舞台で雪の一杯つもつた藁ぶき屋根のうたけた色調が不思議に今も思ひ出される。これとても純粹に日本の色である。私はこの様な日本の色光を現代にも生かしてみたい。単に効果や色調のみでなく、配光の問題からいっても日本の無常観なる精神構造を探究するにつれて、おそらくナッシングではない虚空の舞台美術にむなしく光る照明が可能に違いない。尚、もっと新しいところで例をとれば、日舞における斎藤政雄氏のフロントの58は美しいし、田中恒雄氏の創作舞踊の、ビニール・ホルソントの裏からBOXであてた58の梅の枝の影は絶品だった。これはまた記憶に新しい。又、穴沢先生では「なよたけ」の竹林の

### 私の思うこと

## テレビ照明に於ける 彩色と無彩色について

日本テレビ技術局照明部  
河合 浩

画家が自分の心を表現するのに、キャンパスと絵具をもちいるのと同じように照明家は光と、それによつて出される影によつて自分の意志を表現する。テレビジョンの画像が電波におき換られ、各種のメカニク部門を通過し、電送されて視覚によつて受けとられるように、テレビの照明担当者は舞台の照明家と多少異なるかもしれない。舞台でも、テレビでも、その立場こそ違ひはあるが、もの創造に於ける理念として、基本的な態度は同じであらう。我々の先輩方が舞台照明に各々研究と努力を重ねられ、新しい照明法を生んで尚前進をされ、若い我々の技術の進歩に大いなる期待を遠望されている現在、それと同様に映画フィルムと異つたテレビジョン自体に於ても放送技術(特にオルシコンといわれ、先ず視覚に送られる第一関門である撮像管の発達や、それに伴う他の機器)の開発により、その照明技法も数年の間に変化をして来た。いわゆる白黒テレビに対し、カラーテレビの出現も大きな変遷の一つである。思えば人間の色覚の発達に伴つて、白黒では満足出来得ない欲求を示し、高い感受性を貯えつつ、見るものへの大きな期待をかけて来た。

カラーテレビの画像が油絵的なものであるならば、モノクロテレビの画像は丁度日本の墨絵といふことがいえる。そこには白黒の濃淡で表わされる心理的な葛藤や、内面的な動揺、外面的な季節感等映像の再現し得る全ての陰影を作り出さねばならない作業がある。それがテレビの照明担当者に課せられた役割なのである。映像を観る聴視者によつて、無限を感じさせ、想像をよび起させ、豊かな意味合いを味わいさせることが出来る。無彩色である白黒がこのように有彩色として活躍出来ることは、照明家として大いに利用しなくてはならないことだと思ふ。例えば、マンセル表色系の構成に従つて、Z軸(無彩色)の白黒彩度数N5が、ある人によつては有彩色

グリーンだったかと「セールスマンの死」の幻灯に依る時空間の照明。松崎先生の「櫛罌」と一連の創作舞踊の日本の神秘的色調、特にピンとアークの使い方は巧妙。柘植さんが名古屋へ行かれる前、民芸の「ウイリアム・テル」で一緒にやったことがあつたが、その時の氏の、墨絵の様な照明云々の言葉は未だに忘れられない。そういう相馬氏担当の「京劇」も、オールW照明で気持よかつた。ミラーを試き、レンズを洗うとWは実に綺麗なものであつた。それこそ、無機質的空間に無時間の光をそそぐ目的な方法なのではないか。篠木先生のもの不幸にして殆んど仕事をしていないのが、よく知らないのが残念でいたし方ない。大庭先生には江口さんの「プロメテウス」があり、先生にはよくお話するのだが、邦正美のものを観る機会があれば、いづれ配光なるものをがっちり私の中にうけとめてみたいと思つていゝる。こう考へてくると、日本人の照明は何んと素晴らしいことか。自我自讃はいただけないかもしれないが、少くとも諸先生方はわすか四十年の歴史の間に、舞台美術の進歩と共に自己のものを完成させてきた。だからこそ、われわれは先達の美的結晶を超えて、更に新しいものを創りあげてゆかねば相済まぬ。今までの主義では律し切れぬもつと自由な、もつと角度を換へた、舞台美術作品の内容に即するといふ単に言葉上の事柄に終らないで、やはり「存在」に対して照明を当ててみたいのである。現代は、存在、生の存在に開かないでわかれわかれは生きていく価値を見出せない。生とは一体何であらうか。そういったものを舞踊家と、音楽家と、芝居を創る人々と、観客と、作品をとおり、探究してゆきたいと思ふ。

「ロミオとジュリエット」のベントール氏の照明方法を説明しないで、いきなり一般論になつてしまつたが、要するに欧米のやり方は一貫して実用空間に有効に集光する照明法なのである。そしてロミオの舞台装置も篠原一男の例が示す様に「機能をそなえた空間を連結し乍ら、生活のための全空間を形成してゆく」と云う、本能的ときえ云えるような西歐人の空間のとらえ方は、昔の古い住宅にも、また現代住宅の中にも存在しているのである。」と云う一節の引用で代弁させて置くことにしよう。終りに拙稿を注文の十枚をはるかにこえて、読んで戴いた、先輩、同友各位に心よりお詫び申し上げます。

と同時に、兼ねてより私の茫漠としてではあつたが、考へていたことによりよき示唆を与へ、その発想点を顕示して呉れる結果となつた見知らぬ建築界の先輩、篠原一男氏に厚く御礼申し上げます。

Y%に感じる場合もあろうし、又ある人によつてはPB%に感じる場合もあるかもしれない。それが照明担当者が思いもよらなかつた、或いはこのような感じの色合いで表現したと思つていても、全然違つた色を想像しているかもしれない。しかしそれでよいのではなからうか。照明担当者が、「このような色であります」と示すならば、或いは「この色を想像して下さい。そうしないこのドラマの内容表現は忠実に解釈出来ませんよ」というならば、CIEによる色を示さねばならなくなるだろう。しかしそんなナンセンスな仕事をしても、忠実に表現し得る最大の効果を上げることは決してならない。そればかりか、かえつて観ている人の心を限定し、縮め、彩度数の換算作業を要し、ドラマそのものの表現を複雑にしすぎる結果をまねくことになる。そのような色彩を表現する努力は害にはなつても、ドラマの内容表現を助成し、豊かにする役にはならない。テレビの技術的制約の中で、いかに無彩色を有彩色として感じさせるように使うかが、一つの大きな課題となるだろう。

一方、モノクロに比べ、カラーテレビの場合だと、一層色彩計画の面と、技術的な面と難題となる。人間の眼にはややもすると不確実に映る場合もあれば、色そのものから受ける情感の差が、ドラマ(作品)の内容表現に非常に大きな差となつて受けとられるのではないだろうか。これは前述のモノクロに比べ特に異つた点で、カラーテレビの照明担当者は十分に配慮すべき点だと思ふ。色彩計画は十二分に練り、最も解りやすく、最も忠実に表現され得るかを検討する必要がある。例えば、対比効果をねらつた対比現象の応用なども、上手に使用することによつて、同時対比現象や、同時対比現象の組合せを作り、ドラマやショウの魅力を増進させることは容易に出来るものである。一方、不十分な色彩計画は大変危険な面があり、視覚による誤信は、生理的に不快の念を抱せ、表現的には全くの異論となる。特に技術的な制約の面で、色を電氣的に分解し、送信過程を経て、再び組立てられるといふことを十分に計算して、設計表現されねばならない。と同時に、現在のNTSC方式の放送方式では、カラーと同時にモノクロでも同様な表現方法、いわゆる両立させなくてはならない点で、テレビの照明担当者は、常に研究に励み、努力を重ね、前へ向つて大きく進んでゆかねばならない。

照明方法、或いは照明理論の十分な理解は云うに及ばずだが、技術的な面(カメラや、それに随する放送機器)の開発が著るしい今日、只単に映像を創ることに安閑としていてはならない。照明機器の開発や照明技法も新しい方法を生み、改良すべき点は正し、最良のものとするよう努力したいものである。

# ■若手からの発言

(フリー) 浅沼 貢

照明家協会に対する若手からの発言となるのですが、実をいえば発言をする程の問題を日頃より貯えているとか、協会に対して大いなる批判を持っているから等の理由で発言の場に立ったわけではなく、ただ何となくというふうな、あやふやなことからは、非常に無責任なことでも申し訳ありません。ただし責任をもつていえることは、協会に対して、あまり日頃より期待していない方の分子であるということですね。

お年寄り親睦会だ、などと照明協会を評する言を聞いて、ああ、なるほど感心したりしますが、お年寄りの親睦会になっていたら、それはそれで意味のあることではないか半分得意な気分ではないかと思えます。本当にお年寄りの方たちが仲よくやっていたらいいなら、照明協会万々才だといっても過言ではないでしょう。

私だけではなく、協会に対する無関心な態度が一般的傾向に見受けられますが、その理由の一つには、協会という大きな組織で討議されている問題よりも、協会の個々はそれぞれの分野(グループ)において、日常的で、しかも自己に密接な問題をかかえているので、協会における問題は高踏的あるいは間接的なものに感じられ、会員の協会への注意力、興味があらずれていくことなのではないでしょうか。

それならば、その個々の問題についてまでも、協会が論議すべきものとして取り上げる態度をもち、あるいは信頼して問題提起が出来る協会になり得たその場合には、会員の協会に対する参加の態度もあるいは変化していくのではないのでしょうか。しかし、これは全く否でしよう。何故ならば、個々のグループにおける諸問題を解決する能力に欠けているグループの指導者、あるいは幹部連中によって照明協会の役員が構成されているのを見れば……。

グループ(研究所名称が多いが)内における問題の第一は、経済的な問題、つまり人件費の問題だろう。そのグループに働きかける度合いが異なってくる。つまり経済方針に欠けている度合いが多いグループは、自然経済的問題でゴタゴタが多くなるのは当然だろう。もっとも、そのゴタゴタが起れば、まだ良い方で、経済的な問題での発言

の段階においては、存在しないからなのだろう。興業体と人件費を得る人たちの間の中間体に対して協会の働きを期待できないとしたならば、人件費を得るべき人たちとしては何を考え、何を成すべきか。

この結果によって、各グループによって、人件費のプールによって、人件費の正当な支払方法を見つけ出していくとしても、止むを得ないのではないだろうか。その機構を各組織の中に作るか、あるいは、さらに拡大してユニオンのなみに作り上げて行くかは、さらにその後に来る非常に重要かつ努力のいる仕事であるし、またこの問題は協会が各組織それぞれに対して働きかけることは、あるいはでき得ないとしても、会員全般の問題として取り上げて行かねばならない重要な問題の一つと考えられる。

## ● 私の思うこと

### ■ 放言

東京舞台照明大阪出張所 土山道郎

「三十にして惑わず」とも「美しき惑いの年」を懐かしむ程の詩人にもなれず、世の親達にならって、我が娘に目を細め、かつてない程の「やさしさ」を女房に示して、中年の仲間入りの意気頓挫たることを披露してはいるのですが、さすがに体力だけは二十才代の頑強さを取り戻す訳にもまいらず、それでも仕事には二十才代の人々に劣らぬ鈍牛の粘りがあり、これからは機会ある毎に、「瞬のある仕事」、「人も自分も納得の出来る充実した仕事」をやってみたいと、大いに夢を、自分の内部に孕ませながら、多忙な毎日を送っているわけですね。ところが、現在のマスコミの世の中では、充分に準備と稽古を重ね、自分の照明プランをあらかじめ綿密にたてることすら出来ぬ場合の方が多い、ただ強要されることは「即時性」と「適応主義」に生きることであることは誠に、私の本意からすれば、残念なことには違いないのである。私自身も現在の自分の仕事の様相を、半ば自嘲的に「便利屋」「音楽物屋」など、呼んでみるが、これもただ面白がって云っているのではない。自分は決して「職人」ではない人に真似は出来ても決して冒すことの出来ない、私だけの照明の文法と様式を持っているという自信と照明家意識が、照れかくしに云わされているに過ぎないのである。

になると、なにかの圧力、精神主義的、あるいはそれに連なる徒弟制度的な教育方法によって育てられている、陰湿な空気に負けて、若い者の立場からは仲々できない場合もあるようだ、またそれに対して、近頃の若い者たちは仕事はろくにできもしないで、金のことばかりいう、と、古典的、かつ普遍的な名言によって、現実的な問題を野蠻人的精神主義によって、圧してしまつて例をよく耳にする。人件費からくる種々の問題を徹底的に解決するには、実は興業体に対する人件費アップの運動だけでは、決してないのである。

この件に関しては、何も今さらいうことではなく、グループに属して仕事をしていく人たちならば、だれしもがそのように日夜考えていることだと確信しているが、人件費は人件費として、グループに支出しなければならぬのである。もちろん、能力に応じての所得の高低、あるいは働く人間に関して費す諸経費の計上は当然のことであるが、とにかく人件費分配方法に対する改善の問題を、興業体に対する人件費のアップ問題にすりかえられてはいないか、もちろん、物価の値上りにもなつての値上げは絶対に必要なことで、それなしでは個々の収入の増加もあり得ないことである。

しかし、それ以前に現状においては、支払われるべき金が、支払われるべき者たちに対して完全になされていくかの問題であり、興業体の支払額が増してもグループの支払パーセンテージの変わらないかぎり、何の経済的向上もみられないことになる。

この様な問題が現存しているグループにおいては、その問題に対しての解決する態度、それは指導者たちだけの問題ではなく、組織の個々の人たちにも充分責任のあることで、自らの非力に対して力を持つべく努力しなければならぬだろう。しかしながら、これのみにかぎらず、各組織の問題を照明協会としての問題とした場合には、如何ように解決していくか興味のあることでもあります。照明協会が、いかに優れた協望を望んでも、協会を組織して行くべき各グループ自体に現状改革への強い意志と行動がなければ、到底望み得ないことでしょう。さらにまた、協会と個々の組織とを分立して別個に考えられるとしたならば、協会はそれほどの責任を持つ必要はないでしょうが、協会の構成自体が会員つまり各グループの指導者、あるいは幹部によって成立している以上、協会はグループそれぞれに対しての責任が当然あるべきで、また協会の役員たるべき人々は、当然照明界諸々の向上、発展を願ひ、かつ行動する代表選手であるのだからして、本来もっとも期待でき得る人たちのだと思ふ。

とはいいなが、このような発言をしていることが、非常に無意味な気がして、協会は確かに興業体に対して人件費の増額の運動はしているだろう。だが支払い

「女は裸で勝負する」という映画の題名を笑うことも出来ぬ程「男は色彩で勝負する」仕事に、生活と自分の芸術家としての生命を賭しているのである。人には「結構な商売ですな」とか「良い御趣味がお有りだ」となんか云われても、笑ってはいられず、逆に怒る訳にもいかないし、甚だもって迷惑千万なことであって、人が観たり、聞いたりして喜ぶとどうも共通の場に於て、創ることの喜びと、人に規制されることのない自分の感覚を大いに発揚出来る事の楽しさを味わえる生活にただ不満ながらも満足しているに過ぎない様です。

最近、特に仕事の上で、社会派歌謡曲「例えば」返しておくれ今すぐ」、「オリジナルの曲や唄を扱うことが多くなってきましたが、昔から人口に膾炙している音楽はともかくとして、最近とんとんと新しく生れて来るオリジナルの曲や唄を扱う場合、照明家が如何にあれば、その曲や唄を人々に訴えることが出来るか、又どんなシンチューエーションを人々や歌手に与えることで、その曲や唄を生かすことが出来るか、という問題にぶつかります。その時は私は次の様な態度で先ず最初に、その曲や唄へのアプローチを行ってみるのです。

- ① 曲の持っているイメージと自分がその曲から受けるイメージとの対比。
- ② 説明的解釈(歌詞や内容から連想される)。
- ③ テンポとリズムを重視する。(アレンジの様相)。
- ④ 音楽の出来上った背景、精神的、国民的、感情的な風土を検討する。
- ⑤ ①から④迄のことと全々無関係に考える。
- ⑥ 演出家の「云うま」に従う。
- ⑦ 歌手やバンドのスタイルから考えてみる。
- ⑧ 全体のシヨウのコンテキストの上で夫々を考えてみる。

たとへ「或る」一つの曲には、これではなくてはならないという固定化された照明しかならないにしても、何もかも自由気儘には行きませぬ。一曲一曲にいくら凝り性を発揮しても単なる徒勞に過ぎません。肝心なのは、①から⑧迄のことを考えた上で、もう一度、全体的なコンテキストの上に夫々の曲や唄を置いてみて眺め、それから色々と照明の様相を考えるのが至当です。最初から終りまで「サワリ」の連続では意味がないのです。つまり照明も「演出」という役を演じる必要があるのです。何も美しければ、照明の役目は終わったとみるのは早計です。「包装紙の中味は悪くても包装紙さへ美しくすれば胡麻かせる」といった日本のいわゆる「パッケージ、カルチュア」であつては照明芸術はいけないのです。これは単なる逆説でしょう。

放談会

■貸ホール側照明家の云い分

名鉄ホール 成田金一

司会 一口に舞台照明家といっても、照明研究所に所属する人もあり、劇場に所属する人、テレビ関係の仕事をする人色々ありますが、今日はホールの照明担当者の立場から色々と思いついた御意見を聞かせていただきたく思います。

A ホールの照明担当者は非常に広い範囲に亘り何でもやって行かねばならない。大先生のプランもあれば自分達でぶっつけでやらねばならぬものもある。照明もピンからキリまでとつくづく思いますね、兎に角催物の内容、主催者の力の入れ方によって千差万別ですよ。

B 本場に主催者によって色々だと思えますね。プロの場合は照明にも理解があるし一応そうした配慮もされるから良いけれどもアマの場合には照明がどうやって出来るのかよく分らない。どこでも何でも出来るとお考えになるらしい。その場でここにお月様が欲しい。ここにスポットが欲しいとまじしやる。事前の打合せという事はあまり考えない。よろしくといっておけば後は全部出来てしまう様に考えておられる様だ。こちらから打合せをというとの打合せですかという様なひどい例もありますよ。

C この点、舞台照明というものの一般の認識はまだまだですね。照明の仕事自身の歴史も今の大道具、昔の歌舞伎からの伝統に較べると随分新しい。特に近代機構が実地にふくれ上って来たのはごく僅かの期間しかない。勿論戦争中も色々あったと思うが、舞台照明というものが一つのパートとして今の様に確立し出したのは戦後ではないかと思う。それが急速な進歩をしている。これは、やっているといるものの中でまじく位だから、一般では仲々理解が出来ないのは当然だと思つ。一つの今後の大事な事は、相手がわかっていないという事がその儘で切れてしまつ。切れざるを得ない。いつ見れば相手と顔を合わせるの発表会の当日位でそこで註文が出る。細かい事になると向うはわからないからお任せする。こちらはそれからでは限度がある。それが往々にしてうまく行かなかったという事になる。そしてですね、この人が照明家とつき合う機会というのは一年位先になってしまつ、三度位つき合うという事は三年位先になってしまつ。これでは随分期間がかりますよ。

だけれどもそういうものが存在し得ない現状が問題です。

C たしかにこの存在は必要なんだ。舞台のアロデューサーの様なもの、舞台監督でもよいが、要するにそういう事をやる人が出て来なければいけないと思つ。

もう一つは、そういう人達が専門にいればよいわけですが、ところがそれが専門家としてやっていけるジャンルになっていない。これは名古屋だけの問題ではないと思つ。

まあそういう事が今の照明が巧く行く行かない、理解が出来ない出来ないという事の問題で、照明の具体的な事よりもむしろそちらの方が巧くいくれば大変巧くいくと思つのです。

E その他でも一つ考えなければならぬ事がある。それは照明家の姿勢として、照明家だけでなく裏方の姿勢として考えなければならぬのは、一般の素人の人は裏方の人はおつかない、という恐怖感とは云わないまでも非常にはれ物にさわる様な感情を持っているところが多い。全部が全部そうでないにしても相手の気嫌をとり始めたら、その責任者に気分をこわされたら当日の舞台が巧くいかない様な見方というものが存在しているわけだ。

これからの近代的な舞台芸術を作っていくために、そういう風習だけは破っていかないと、表面上はお世辞でつながっているも腹の中では、向うはこの野郎と思つているだろうし、こちらもおん畜生と思つていたんではやっぱりいい仕事にならない。

日常においてそういう人達とどうやってつながっていくから、舞台照明とはこういう過程で出来ていくのだという事をどうしてPRしていくか。この相手とのつながり方が今後の鍵だと思つね。

司会 どうも有難うございました。対外的な問題はその位にして、次に内部の問題としてデザイナーとホール側の照明家の関係についてはどうでしょうか。

A 同じ照明家として夫々の立場を尊重し合えば問題はないですよ。現在のところ名古屋では非常に巧くいっていると思つ。一つ感じますのは、地元のデザイナーによって行なわれるものでなく、東西で上演されたものを名古屋で再演する劇団のデザイナーにお願したい事ですが、夫々にホールの機構が違っているわけですから、こちらのホールの機構をよく理解してデザインしていただきたい。先方の劇場の仕込をその儘小さなホールに移したりする様な安易な事は絶対にやらないで欲しいですね。再演という事で何となく安易な気持というか、力を抜く様な事のない様に願いたい。何とんでもデザイナーは我々照明家の中の頂点に立つ人ですからね。いい仕事

D これは先づ舞台照明そのものを一般にPRする事を舞台照明家全体で一番先に考えていかなければならぬと思つますね。色々説明してわかっていただいても次に使うのが一年先では又一から説明のやり直しという事ですからね。兎に角照明に金をかける事が決して損じゃないという事を認識してもらつたと思つます。

C 一方でですね、当日云われたものでは何も出来ませんとケツテしまつてもすむと思つ。先方でも早く云わなかったから仕方がないんだと思つてしよう。次には随分早くからいつて来る。ところが早くいつて来たにも拘らずうまくいかなかった。それは一体どういう訳かという事になりかねない。

又経費がこれだけではと開き直られてそれではとだけかけたらいいか、この位ならという事でかけたところがあまりパットしない、そういう様な事もたくさんある。金の事でもなく、打合せのまずさでもなく、うまくいつているところは非常にうまくいつている。何故巧くいくかという事の一つは、主催者のまわりに非常に舞台を良く知つている進行の人がいる。世話をする人がいるという事が大変スムーズに行つてい原因ですね、打合せの段取りといい、台本の作成といい、無駄をやつていない。

D そうですね。そういったところは大抵巧くいつている。まあそれだけよく理解されているという事ですね。一般に主催者の方は表裏は比較的明るいし、又しっかりと企画を立てられるが、舞台関係、特に照明の辺りになるとどうもあいまいになるのが多いです。ホールを使って催物をする場合は当然主催者の中に舞台の事をよく知つている人が参画するか、主催者自身がこれに身をつけていなければならぬと思つます。

B その場合は舞台の専門家である事が大切だ。舞台マナーを心得た、常識の持主であること。よく生半可な人が、そうした段取り位ならわしがやつてやる。と出てくるが連絡の方法を間違えたり、生かじりが災いして、かえつてゴタゴタを起して巧くいかなかった例がありますからね。

E しかし専門家に頼むのも要するに金次第じゃないかな。大体照明費を出し惜しむ様なところがそんな余分な人を頼む事は絶対ないよ。照明だつてホール付の照明家で何とかやつてくれないう下心が見えているよ。外部の照明家に頼まなければ出来ませんよ、と云うと何か損をした様な顔をする。

D まあそれは極端でしようが、限られた予算でやっていくとどうしても目に見えるところから使っていくという傾向が出来ますから、目に見えない部分はけずられる。特に舞台進行は全く抹殺されてしまつ事になる。これは一つの穴だと思つ。必要

をとして欲しいですよ。

B 今の話しと関連するが、今迄に一番問題になったのは、東京の劇場、或いはホールで上演されたものが名古屋にくる場合、デザイナーが来ず、資料だけ提出して万事宜しくという場合だね。

マネージャーとかその他照明家でない人がデザイナー帖、仕込図を持って持ってきた場合にそれが名古屋公演でのデザインといえるかどうか。これは既に中部照明で、それは照明資料であつてデザイナーと認めないという線を出して、関東、関西の了解を得た訳だが、これなんか照明デザイナーに対する扱い方として大きな問題だったね。

E 当然あれはデザイナーとは云えないよ。何故デザイナーが来ないのか、忙しいというの理由にならない。これはないという事はそのデザイナーを放棄した事だと思つね。デザイナーが明り合せに出ないというのは無責任だよ。それでデザイナー料だけとつて後は現地で宜しくというならもつての外だ。

D いや、これは恐らく主催者の方が悪いんだと思つますね。少しでも経費を安くしようというところから、デザイナーは来なくても資料だけ預つて現地でやつてもらいますからという様なことでしよう。マネージャーなんてそんなことしか考えていない。

司会 仲々辛らつですね。それでは最後にホール所属の照明家自身の問題として、舞台照明の仕事をどの様に扱っていくかということについて御意見を伺いたいと思つます。

C 公会堂、ホール関係に所属する照明家は皆管理の方えまわり、実際に照明設備を動かしているのは、主催者から依頼されて外部から入るデザイナーとオペレーターだ。内部の者は主催者と照明家の間のつなぎとか、器具の貸出ということだから大分様子が変わつてきている。これはそれぞれの会場の方針だから何とも云えないがね。

A 舞台照明家自身の気持としては、どしどし照明デザイナーを行ない、操作を行っていく事の方がよくなってきている。

管理の仕事となれば舞台照明の仕事から一歩離れる事になるのですからね。どちらが楽しいかと云えば当然中に入つてやつた方が良いと思つますよ。問題は上の方で照明デザイナーの仕事を含めて照明係の仕事として認めてくれるかという事、決してそうではないですよ。職名だつて管理係とか技術係という事で、少ない人員で舞台全体の管理をやつている。その中で照明の方を分担しているよ云う事です。これでは舞台照明に対して、どんなに意欲を持っていても思つ様にやれない。そこに一つの壁につき当つてしまつます。ホールに所属する照明家が照明の仕事をやつていくとする

## 新製品紹介

# SIDAC調光装置

株式会社電電社技術第一課長

梶田 茂雄

戦後の半導体工業の急速な発達は、その応用分野の拡張と共に価格の低廉をもたらし、1957年米国のGE社のSCR（シリコン制御整流素子）開発以来、照明界に半導体が導入されるようになってきている。

特に舞台照明、TVスタジオ照明の分野への応用は大容量化、高度の演出技術を可能とし、益々利用されようとしている。

SCRが文字通り整流器であり、その特性は非対称的であるため、これを用いて交流回路の制御を行なうためにはどうしても2個の素子を逆並列に接続して用いねばならず、整流回路に用いる場合に比し、その制御回路が多少複雑になるのは止むを得ない。

しかしながらここに紹介するSIDAC（サイダック）調光装置については、その主要部品であるSIDAC（Silicon Diode for A/C）に特長を有するもので別名シリコン対称型素子、とも呼ばれ、1個の素子でその特性が対称的なので交流回路の制御は可能である、これは調光装置の経済性の向上、小型化を意味するものといえる。

写真1は調光ユニットの外観をしめすが保守点検に便利のように、また互換性をもたせるためプラグインタイプとしている。

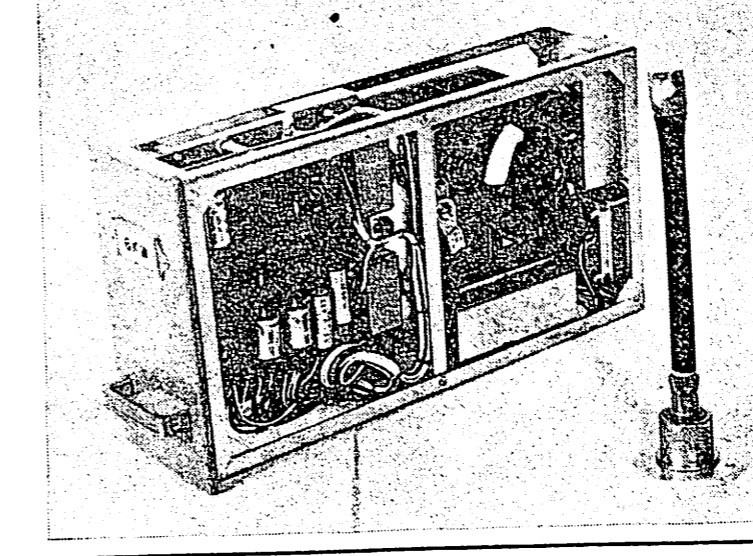
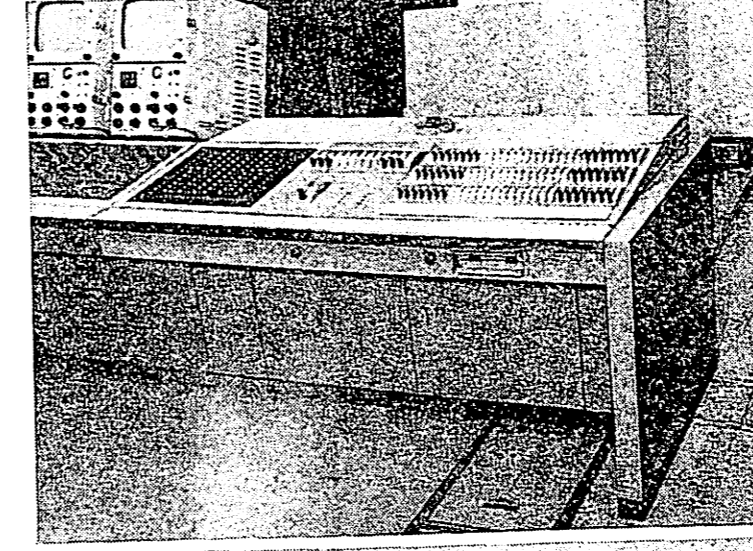
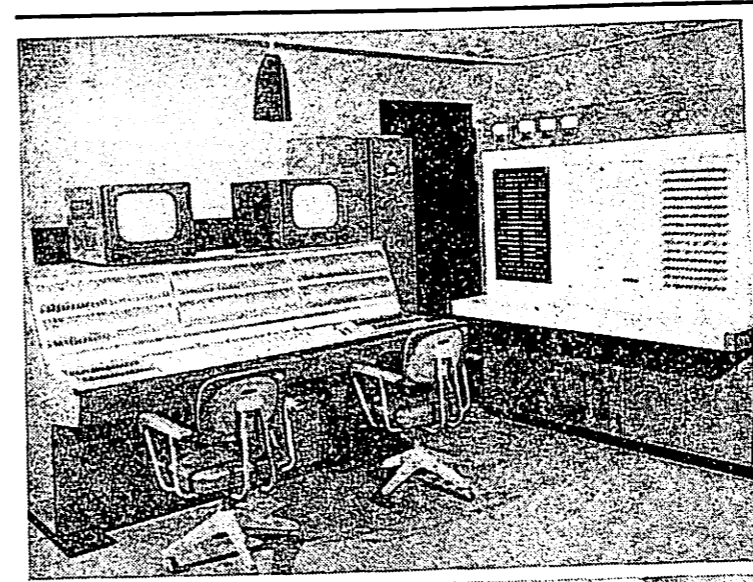
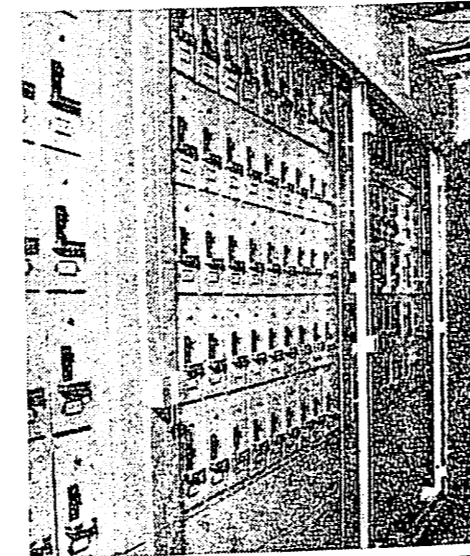
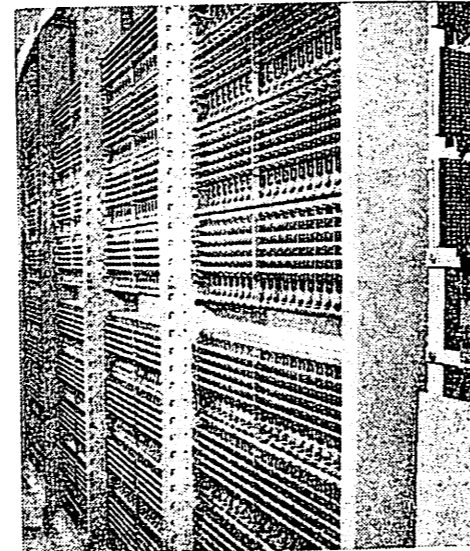
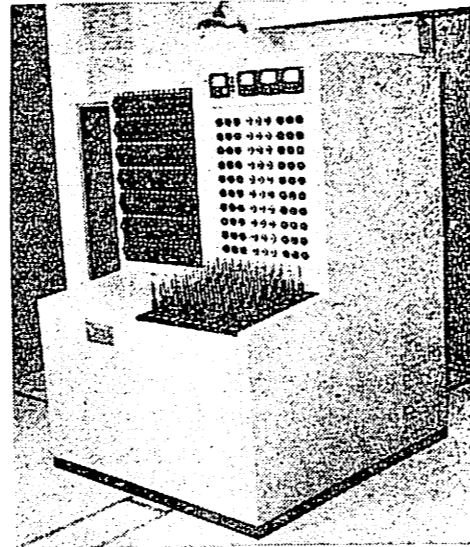
従来のオートトランス方式調光機と比較すると容積、重量共に約1/10程度で非常に小型となっている。

写真2、3、4は大型容量の劇場、TVスタジオの調光装置であるがこの方式の特色は全負荷回路の調光ユニット数を備え、弱電切替操作を行ない、任意のフェーダーに任意の調光ユニットを接続可能とした点である。

写真はそれぞれ副調整室内の操作卓、制御盤、また調光ラック室の調光ユニットラックおよびクロスパーリレー制御装置をしめす。

この方式にはクロスパーリレー（最新式の電話交換機用の継電器）を利用しているが、最近、欧米において二、三の設置例がみられるごとく劇場でのオートマッチク・プログラミング・システム（照明操作を自動的に組み込み、切替えることが可能で特に長期公演の際にその威力を発揮する）には欠かすことのできぬ要素である。

写真5、6、7は劇場、ホール、公民館、TVスタジオ等、中型容量の最も普及した調光装置で調光ユニットラック、照明操作卓、及プラグ盤切替盤である。



場合、先づ内部で照明の仕事をかちとらなければならないという問題が出てきます。  
D これはそのホールの持つ性格にも左右されることですが、貸ホールの照明部門でもかなりのウェイトをもってやっていると東京、大阪にはありますよ。これは私設のホールに多いのですが、公立のホールではそういうところまで持っていないものではないでしょうか。

E お役所の中に非常に封建的なものが残っている。前例に従って、余計なことは手を出さないという事勿主義みたいなものがある。だから照明だけどんどん進んで行っているという様な気持ちで後から足を引張られるものがないだろうか。も一つは管理の仕事なら定員の面で安定している。ところが照明の仕事を実際にやっていると人員の問題が面倒だ。労務管理がややこしくなる。

A 一つこういう事がありますよ。映写技士には国家試験があった。だから映写技士の資格を持っていると、それが職種として認められ、待遇もされる訳です。処が舞台照明をやった来た人はいくら技術が優秀で能力があっても、それは資格として認められない。これなんかもお役所のな考え方だと思えます。前に話題になった舞台照明家の国家試験も、こうした意味で大いに役立ちますよ。  
司会 色々と言ったお話伺って来まして、特に感じられましたのは、舞台照明の仕事はまだ歴史が新しい。従って、これから解決して行かなければならない問題がたくさんあります。その中で先ず我々全員が心掛けねばならぬ点は、舞台照明という仕事を、少しでも多く一般に認識してもらおうという事にあるんじゃないかと思えます。本日はどうも大変有難う御座居ました。

新製品紹介

フォロースポット

株式会社 電電社技術第一課長  
榎田 茂雄

今日、テレビスタジオ、舞台上でフォロースポットが特殊効果用器具として不可欠のものであり、数多く使用されていることは言をまたない。

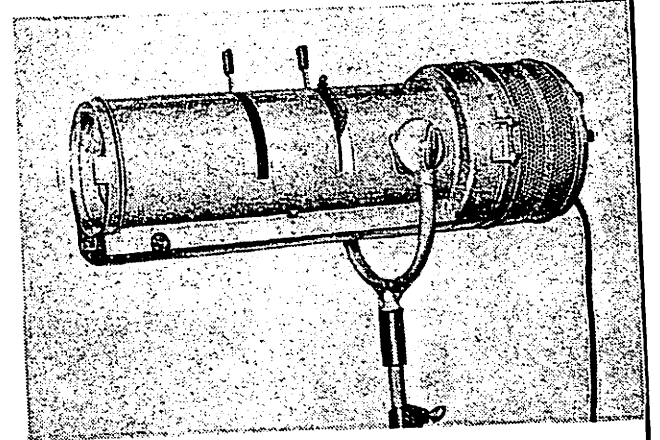
然しながらその性能の点については満足されていず、長年性能の向上、小型軽量が叫ばれてきた。弊社では昨年SMPTE誌5月号に紹介されたごとくシールドビーム型電球を使用のフォロースポットを完成、市販を開始すると同時に米国 COLORTRAN社 はじめ諸外国へ輸出をおこなっている。

このフォロースポットの最も優れている点は、さきに述べたように光源として PAR 64、シールドビーム型電球を使用し有効光束の増大を図ったこと即ち器具効率が大きく、使用中の減光率が少ない。又光源が小型であることから器具全体が非常に軽量小型となっている等の特点を有している。

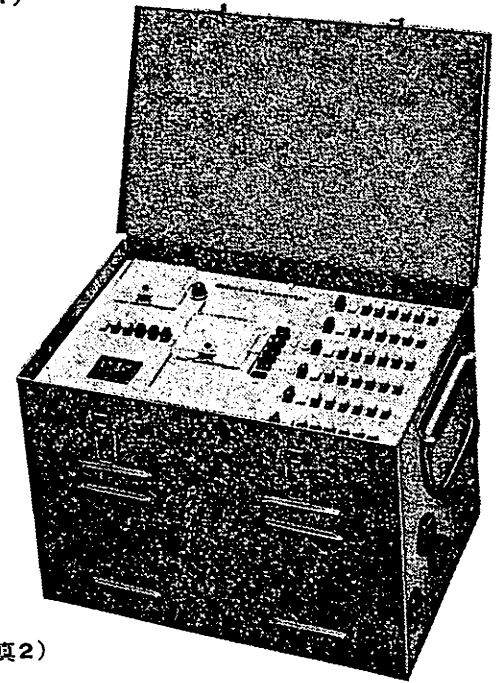
写真1、表1にその外観および性能を示すが、PS-6-2Mは投射距離6M用、またPS-10-2Mは投射距離10M用である、近くPS-20-2M、投射距離20M用を市販の予定である。

劇場あるいはホール等その場所の電源事情により規定電源が得られない場合が考えられる。その際写真2のコンバーターを併用することで、いかなる入力電圧のところでも効率良く使用出来るよう考慮が払われている。

新光源を使用の新型フォロースポットも現在開発中であり、近々その性能、構造等について御報告出来ることと考える。



(写真1)



(写真2)

PS6-2M					PS10-2M						
距離 (M)	直径 (M)	700 W (コンバーター使用) (色温度 3400°K)			1.3KW (LX)	1KW (LX)	距離 (M)	直径 (M)	700 W (コンバーター使用) (色温度 3400°K)		
		1.3KW (LX)	1KW (LX)	1.3KW (LX)					1KW (LX)		
4	1.3	11700	9400	8000	6	1.2	9100	8000	6800		
6	2.0	4700	4100	3200	8	1.6	5000	4300	3700		
8	2.7	2600	2400	1900	10	2.0	3200	2600	2200		
10	3.3	1700	1400	1200	12	2.4	2200	1700	1600		
12	4.0	1200	1000	840	14	2.8	1600	1300	1100		
14	4.7	840	720	600	16	3.2	1200	1050	900		
16	5.3	650	570	450	18	3.6	1000	810	700		
18	6.0	510	420	370	20	4.0	800	690	570		
20	6.7	410	350	300							

私の思うこと

偶

感

日本テレビ技術局照明部  
加藤 郁平

テレビ受像機が毎日の頭の中の茶の間を占める割合は、生活の原っぱに欠くことのできない草や水にたとえることができる。雑草のように強いということがいわれるが、テレビは新聞やラジオと比べて強いというよりは広い原っぱの草花だろ。マスコミの荒れ模様を眉をしかめて見ない連中は別として、少しでも見馴れたり通ぶったりしている連中のなかには、量よりも質について小うるさいことをいう。心理的な内容もさることながら、物としてのセットの現実感や、もう少し病骨もつうに入るとライティングの是非について、観客たちの中には見てきたような嘘をつく手合がいる。どうして現実そのものの模写であり再生であり縮図でもあるブラウン管の世界である限り、こうしたせりや混雑は必要悪のようなものである程度は仕方ない尺度の上に立たされている。テレビはいかに速報性や真実性を大寫しにしても、遂に一枚のタプロードを出ることは今のところ不可能な絵である。テレビは茶の間や事務室の掛軸以上に実用的な絵である。こうしたことはまあ客観的な見方だが、実際にテレビの絵をつくっている側から考えてみると、ただ単に実用性云々では済まずこのできない面が多い。放送関係者の良心の多くが実用的な嘘をいかにして芸術品に見せようかと苦勞しているところは、ちよつとしたドラマの腹芸に似ている。ここで産屋敷を余り語ってははじまらない。そのテレビの画面の本当らしさを占める照明については関係者の涙ぐましい努力によって、本当の物よりもむしろ本当であるらしい巧み的な成果があげられてきている。技術的なデータも沢山書かれ次々と修正改善されている。そしてモノクロームの世界から自然色の世界に、本当の色彩より美しいカラーテレビの時代がきている。さきほどの観客(視聴者と呼んでいる)が茶の間の小屋における耳も肥えた観客に変わりはない)ではないが、ライティングの良否を評したがる傾向に広える余り、観客中心の照明づくりに大勢が傾いていってしまう。とすれば問題だろ

う。舞台等と同じで観客が芝居やショーをつくるということでは確かにある。観客の反応はたしかにすぐれた鋭気とひろがりを持つてはいるが、それに對する傾きの間々ある近頃の大衆文化論の進め方には少し分錯覚がかくされている。マスコミュニケーションが、単なる伝達の使命にだけ奉仕しているのは片手落ちというもので、伝達を併せ持ちながら、観客の要望する向きの秘密を受けて立つ表現の地ならしがなくては、茶の間の実用品はおろか視聴覚文化の公器等というお題目の価値はあり得ない。照明のつくり方について精神主義的な裏うちをする気持は毛頭ないが、時勢やその時の心理状態やで変わりやすい態度をとっているとするれば、そこを疑問に思つて、冷静に今一度でも考え直してみようと思つた。技術的な面では科学的に開発され管理されてきたし、各テレビ局の特長なり消長なりは、関係者が漠然と抽象的に考えている標準をはるかに抜いていると思つた。「テレビ照明の実際」という主題をめぐって検討された青木久一氏の論文(「テレビ学」誌四十年九月号)にも、その具象的な発展の跡を如実に見ることが出来る。そこでは、ひとつの大事な認識をあらたに改めた報告が発表されて興味をひく。従来のキイライトとモデリングライトについての教科書の解説に充ちた解説書も、そろそろ具体的な人物としての照明術に書き改められるべきときがきている。感情的に大声でわめき散らしたり、せつな的に割り切つて事足りてとした時代のランプは消えた。照明操作の方法や過程がいかに機械のちからを借りているからとはいへ、人間の知恵や器量によって果されるものであるのは、むかしも今も変わりはない。オートクランチやSCRの機械に人間感情が反映しなかつたら現実も抽象もない。

しごく当り前のことだが、これが意外に抵抗あるものとして受け取られている向きもある。機械信仰が人間の良き美しさを日ごとく破壊しているのを身近に見るにつけ、将来ある照明家が自分の可能性よりも機械の自動性やマスプロに足をひかれていくのを、テレビ画面の白味の時間のように悲しく思つた。物としての照明術であつても、唯物崇拜に影しているのは機械があつて機会のない人間不在の空だのみである。けちなことはいわない、テレビの照明に限つてしまわないで製作者と視聴者を含めた生活者の光と影の記録の更新であつてほしいものである。

# 名残三十路春夢

盤巻としたスイッチ・ジャックコード生い茂る、昼尚暗き照明室に居並ぶマンマン E.T.C.の各氏、せめて話の花を桜に咲かせ、逆さボンボリ(タウンライト)に灯りを入れて夜桜見物と雁首並べる特攻隊(粋は有っても帰らぬ)桜花爛漫と咲き競い触れなば散らん風情一入、折しも夜半の嵐に花びらが、ヒラヒラリンリンヒラリンリ WってDぞって鳴る電話

T氏「ああもしもし、此方はサービシテレ美の聰明ですが」  
N氏「あのTの氏さんですか、お久しぶりで丁度良かったです。実は今度、生半日の善酷使に若年寄の声を掲載する事になって早速で恐縮ですが、いやあ勿論結構です垂れ流しても、だから良い肥に成る声を二三つ拗いて下さい。先ず始めに、愚兄賢弟と云われる誇りにしての御感想を」

T氏「さあ、突然の話で何と答えて良いのか迷って終うね、まあ迷うのが当り前だね、四十才迄にはチョイト間が抜けてるからね」  
N氏「茶化さないで下さいよ、その迷える小山羊(T氏は筋骨皮隆々なり)の盆廻し(奈落の底)とき云う戦中派三十台が、結局若年寄としての此方で吸い上げ様としてます声なのです」

T氏「戦中派と聞いて、思いつきみたいだが、愛する祖国に想いを寄せればだね、敗戦前の神国日本は愚兄にして、民主日本は賢弟と云う処だね、その賢弟も年を経最近は大分兄貴に似てきたんでは、それが証拠には最近のアジアの平和、ひいては世界の平和に及ぶ、毛利元就よりサイダーに至る三矢研究とはそも如何なる問題であるのか……」

N氏「もしもし一〇番(興奮)さん、愚弟と併せて編集子として誠に済みませんが、生々しい大きな話は又の機会にして頂いて、今回はもう少し中小的で職業に關連した話をお願いしたいんですが、いけんけえ、賢兄どうけえ」

T氏「抽象的と云っても所詮は現実的にいや、ひよつとすると中傷的に似て終うとねえ、弱ったなあ、参った参った、えいっ(清水ステージよりダイビング)御存知厚顔火運の無少年で、さあ行こう」  
N氏「結構々々、決行ですね」  
T氏「ちやあ、灯り屋としての路面電車のレール(脱線、転職も可)を敷いて頂い

当てにせず御期待しています」  
少しむつとしてT氏「もしもし、皮肉ですか(思い当って)いやあーどうもどうも短気は相気でしたな。早速理解していただいて、くだらぬ話を辛抱強く聞いて下さって有難う。後もう少しですから、ここが辛抱のしどころですよ。先日親愛なる友人より迷える年代の最後に身を置く山田宗隆著(年代としてのみにて、二昔以前に迷夢より目覚められているのではあるまいか)危険な思想家を読んで敬服しましたよ。小生としても、一人でもより多くの人が一寸でもより良い生活に、一時でもより長い時間(戦争を無くし自然災害をより小さく)を保たせる事の出来る現実を夢みてるその僕が感銘を憶えたのにああそれなのに、過日、中日一家に草鞋を脱いだ吉良仁吉(僕は労働歌も好きだが浪花節も嫌いではない)さん曰く、山田宗隆というのは、よほど頭のイカレタ男らしい。告発狂山田はどうやらモウ想狂でもあるらしい。彼もまことに思想の安全運転の出来ない男である等と仁吉さんの言葉だけを聞くと「危険な思想家」の内容も知らずして、作家山田宗隆こそ危険な奴とそれこそ誠に危険な泰平ムードに埋没する様なものではないだろうか。だから嫌いではないが好きにはなれない浪花節シャンシャンと」

N氏「もしもしTの氏さん、調子に乗られて(もつちやその他にも色々乗る人だからね)又も大きな話になりましたね。そうして電話の方も大分長い話になりましたが、先程からほんの少しデリデリしてらるんですが……」  
T氏「恐縮恐縮、誘われれば何とやら、大小長短、赤青の色々すべてまあ長い目で見て下さいよ。新聞報道(話半分、葉九層倍、千三つのな面も多々)に依つても、ベトナムの解放(現に進行中にて)達成は十年二十年先の話。若き我々が互恵平等の真心を培かって、じっくり腰を据えて、がっちり腕を組んで、一步一步確実に前へ前へ進みましようや……」

腰を据えて、一步一步進んで話して居る事が解ってるのかな。ハッスルし過ぎてボケて来たんちや無いかな。こちらで有難うを云うとするかな。  
N氏「もしもし、益々お若く御元気で、その意気を一時でもより長く持続けられ、夢々若き未だ人をこの世に増やされません様に」  
T氏「どうもどうも色々有難う。まだ他にも何かと聞いて頂きたい事も有るが、長きはかりが尊からず。それに丁度早い勤労の時間も来ましたので、お言葉に甘えての饒舌の垂れ流しを快く聞いて頂きました事を広く深く御礼申し上げます。さようなら。ガチャンコ」

眞暗雑誌 生少名言

た次兄について先に。当りが逆も柔かく、相手にとつて少しむずかしい事等は総て自分で、叱言も云われずさささと処理されて終うので、短い時点では優しい兄と感謝間隙ふと振り返れば只一人春日遅々と進まず、自分の探究心の居睡りはそつとして、当りはずれの逆うちみ(小者は御し難いね。しかし、大者も云わぬ叱言なら心理的行動にもせずに徹せよ)ヒラヒラの想いを泣か感じましたよ、え、最近はどうですか?、賀状にてお互いの健闘を確めてはいますが、仲々相会う機会も無く、噂に聞けば日頃の温和な欲求不満の反動なのか、時々理性を超越される様な言動を現われるとの事。早呑込の聞き違いで有れば良いと思っっている様な御無沙汰続きの近頃です。それにひきかえ、長兄には今尚手足細の如く教導をほしままにしています」  
N氏「愈々上の兄さんの話になりましたね。話に聞いた処では、最近はぐつと優しくなられたそうですね」

T氏「正に然り、昔日の感、今は昔の物語りという処ですね。此の兄によって、さながら高所に至れるモノレールの如く脱線したら満身創痍、運悪ければ死線に乗り入れたモーターマンならぬライトマンとしての決意も出来ました。百雷の一時に落つる様なきびしき叱咤を受ける事再三再四、その都度小心おすおす、次兄とはつまり南北程の差に、南か北か何れの道をもみなきた方が良いのか、針はぐるぐる目は廻る、針を追うのを暫し止め中心点に目をやれば、風雪を降た古文字で短気は短気と書いてある。教え聞かせてやらせるよりも自分でやった方が早いし、それに世話もやけぬで却て手がからぬ(盲目の愛も愛の内、流行歌の管歌より)。愛するが故に僕に厳しくしなければと、解って怒鳴る親は自には後へ残さず、サラリとしても、物心ついた子供には叱られておどおど、心の均衡を失くして失敗の重ね着に、動作益々緩慢、アブレな子供は鬼も蛇も出ない雷なんぞ怖くねえと、身ぐるみ脱いで素裸で眺ね廻れば手もかからぬが、故に掴むこともできずに新しき國にて既に亡び去った言葉メソファーズに似た嘆きの独白を聞くは冷飯食いの僻み根性のなせる聞き違いか。でも弟として、兄たちに主観的に客観的に若干的に外れたとしても、その様な感じを受けたい以上、続々続々弟たちに長兄の仕事に対する厳しさと次兄の人に対する優しさの、それぞれの範とするところを自分なりに結合して(独善に陥らず機有る如に自己批判を怠らず)少しづつでも太い通りの良いパイプに成長するべく努力して善弟善兄たらんと目指しています」

N氏「もしもし、グッドタイミングですな。今は当市の市長選、死民(投票率四三%)。この当て字投票後に」としまして御政見御発表に御忠実な御実現を恒例として

## 詩 <フレヒトに宛えて>

舞台上光をくれ あたり屋さん 尤もなことだ  
ああ よく判ったよ フレヒトさん  
あかり屋だつて アナタのことを考えないことはないんだよ  
だって もう 自然主義や心理主義は  
とつくの昔に 俺たちの先達がやってくれてるよ  
それにエリオットが「荒地」を書いて俺たちに教えてくれた様に  
俺たちだつて「存在」をたしかめてみたいと思うものネ  
そりやーいやに暗い場合だつてあるサ  
あまり写実的で お前さんのいう異化作用を満足させないこともあるだろ  
らうよ  
だからといって 俺たちは  
そのみに拘泥しているわけではないんだよ  
劇について 存在について 生きた光について  
俺たちは俺たちなりに 考えているんだよ  
照明は もう こんなところまで おいついてきたさ  
でも もう少し 足りないナ  
本書や 演出屋や 役者に比べて もう少しみんな研究しなくちゃア  
技術は 器用なことにかけては アンタたち ドイツにや 負けちゃい  
ねえと思うが――  
いや どんな分野だつて そういつちやア なんだけど  
根本的な 認識の点で  
どうも その辺が ネー  
まア 待っていて下さい  
△一九六五・六・六△

東京サンケイホール勤務 岩品健介

# 白黒テレビ照明の実際

和田光弘

## 緒言

照明の範囲は非常に広く、その性質に応じて幾つかの部門に分れておるが、これを大別すると、一般照明（一般建築物照明、屋外照明、広告照明等）、映画照明、舞台照明、テレビ照明に分けられる。

一般照明も近代に至り急速に歩を進め、たし、極く特殊な分野を除いては殆んどすべてが、それぞれ適切なモードが要求されるようになり、演出効果を高めるよう工夫がなされており、照明の役割はこの分野においても一層重要さを増すに至った。

殊に後者の三部門は総合芸術としての映画、演劇、舞踊にその一つの要素として照明部門が存在し、重要な役割を果していることは周知の事実である。

- A、見えること
- B、写実的效果を表わすこと
- C、心理的效果を狙って劇の内容を助長し、あるいは登場人物の心理を表現する。

D、美的効果を表わすことである。

画家はカンバスに絵具と絵筆をもって絵を描くが、照明家は電気やその他のものを使って、光で絵を描くことである。舞台、映画、テレビの照明家は、それぞれの舞台上に、スクリーンに、または空間にプラウソップ管上にと光で絵を描くのである。

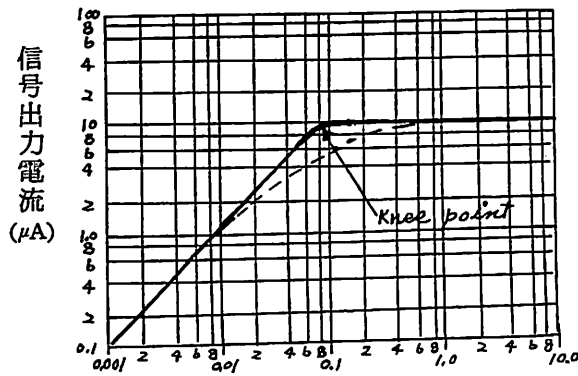
しかしながら、テレビは他の部門に比較して歴史が浅く一番若いので、余程勉強しないといふ部門に追いつくことはむづかしい。そのためには、電気工学、物理学、電子工学、心理学等の知識が必要であり、その上に芸術を理解することが必須条件となるが、一口に芸術といつても、歌舞伎、現代劇、新劇、舞演劇、洋舞、日舞、ミュージカル・ショー、洋楽、邦楽等々数限りない位あるが、これらを一応理解できる力をもつための勉強も必要である。

## テレビ照明の特徴

舞台、映画、テレビ各々の照明目的は

テレビ・カメラ、換言すれば撮像管イメージオルシコンの光電変換特性に關係している。

光電変換特性とは撮像管が入射する光量に対してどのような感度特性を示すかということである。A図にイメージオルシコン、5820Aの光電変換特性及びイメージオルシコンに必要な照度方式ならびにイメージオルシコン、5820、0、GL-7629、6474、7511の出力特性を示す。



A図 5820Aの光電交換特性

.....実際のシーンをとった時に想定される初作特性。

——黒に1%程度の白がある場合

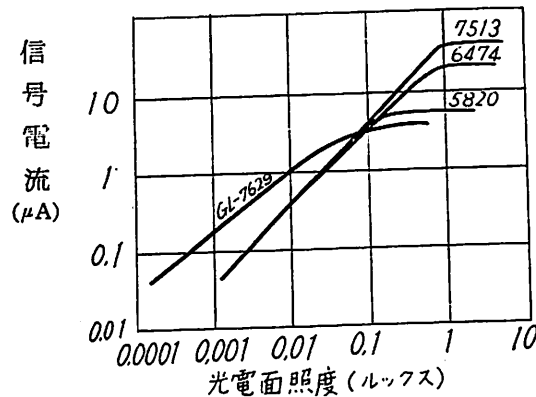
$$\text{カメラに入射すべき光量 (照度)} = \frac{4f^2 I_{pc} (m-1)^2}{TR}$$

- f : レンズの絞り
  - I<sub>pc</sub> : 光電面照度
  - m : 光電面上の像と実際の被写体との長さの比、通常≠0
- f=8 T=75%とすれば K=350  
f=16 " " K=1400

第1表

	小面積		大面積	
	最大	最小	最大	最小
オルシコン上の照度	0.4 lux	0.02 lux	0.2 lux	0.04 lux
カメラ方向の像の照度 * f=16 (K=1400)	560 lux	28 lux	280 lux	56 lux
コントラスト比	20		5	

\*これはカメラ位置にて、スポット照度計を被写体に向けた場合に相当する。照度計を用いる場合はこの様にスポット照度計を用いるが最もよい。もし被写体の位置で入射型の照度計を用いる場合は、カメラ方向に照度計を向けて計る。この場合物体の反射率を30%とすれば(皮膚の反射率)約1000luxの指示が必要である。



B図 イメージオルシコンの出力特性

一つであるが、相違点としては、舞台照明は観客の肉眼を対象にしており、映画照明は写真フィルム感光膜性質と映写効果を考慮して決められている。テレビ照明はテレビカメラを対象として、受像機に至るまでの種々の技術上の制約を考慮したものでなければならぬ。

すなわちテレビ照明の最終的目標は、番組の意図する内容を充分に表現するにあるが、その前提として良好な映像を与える照明でなければならぬ。従って「よく見えるようにする」ためには、適正な照度が必要である。テレビ照明の良否は最終的には各家庭の受像画面上で評価される。したがって、スタジオ内の照明が、肉眼にいかにも美しく、あるいは写実的であろうとも意味がなく、各家庭の受像機に、美しく、自然らしく、再現されなければ満足な照明とはいわれない。

## 撮像管と照明の關係

テレビ撮像管にはビデオン・カメラ、アイコノスコープ・カメラ、及びイメージ・オルシコン・カメラがある。

## コントラスト

テレビの映像において、最も問題となるのはコントラストである。映像として再現し得るコントラスト範囲は二〇対一以内に止めるべきである。

- 人間の眼 100 : 1
- 35ミリ映画 40 : 1
- テレビジョン 20 : 1

人間の肉眼で見るよりも撮像管の眼(特性)は、明るい方にも暗い方も範囲が狭いので、テレビの受像管の上ではある程度以上の白はほとんど同一階調の色に見え、ある程度以下の黒は同一の階調の黒になって再現される。

また二〇対一以下のコントラスト範囲

◆ビデオン・カメラ  
ビデオンという撮像管を使用したカメラでは光を強く当てられる。従ってフィルム、スライド等を通過する光量を増すことができるので、フィルム投写機と組合わせた据付用カメラ及び数字式の時刻表示装置、またはカラー用ビデオン・カメラとして使用している。

◆アイコノスコープ・カメラ  
撮像管としてアイコノスコープを使用したもので、長時間同じ対象物に焦点を合わせてカメラを動かさなくとも焼付きなどの現象が少ないので、テスト・パターン、フィルム及びテロップ用カメラとして適し、またビデオン・カメラと違つた特徴もあり、なかなか捨て難い味の出ることができる。

◆イメージ・オルシコン・カメラ  
イメージ・オルシコンは現在の最高感度の写真フィルムよりも感度が良く、また他の撮像管よりも感度が良好であるからスタジオ番組、或いは局外中継に使用されている。

テレビ照明の技術的制約の大部分はテレビに保つたとしても、隣接する被写体のコントラスト比が二対一以下になると、その区別がしにくくなる。従って二〇対一以内で、かつグレースケールとして五段階位に収めるのが好ましい。一つの画面の中で隣接した部分のコントラストが大きくなると、相対的に白い部分はより白く、黒い部分はより黒くなる。その影響度はコントラストが大きい程、白および黒の面積が広い程大きい。従って白や黒の両極端のコントラストのものは、一寸したアクセントをつける場合にのみ使用すべきで、広い面積の部分に使用することとはさけた方がよい。

この現象がさらに激しくなると、白色で反射の強い衣服、白のテンプルクロス、宝石、裸の火(ローソクの火を含む)など、ブラックボーターやイメージオルシコン・ゴースト、クラウディング、また像の周囲に白い輪を生ずるホワイト・ハローやハイライトの箇所や、画面内の水平方向に尾を引いて画面内の人物の動きにつれて動くストリーキングなど、不快な異常現象となる。

これらの現象は被写体の輝度、またはコントラストが強過ぎるために生じるから、背景、セット、衣裳、小道具類を選ぶ際に、反射率を測定して照明を考慮しなければならない。

色感度特性

イメージオルシコンにはどのような色感度が良いとか悪いとかいうことを色感度特性と呼ぶ。イメージオルシコンでは人の目より波長の短かい方、すなわち紫外線の方に感度が優れている。

白黒テレビでは総ての被写体の色彩が、照明光源をも含む一切の光学系の波長特性と撮像管の波長感度特性によって無彩色明度段階に変換される。

照明光源としてはスタジオでは一段に白熱ランプが使用されるか、白熱ランプと蛍光灯との混合光も使われている。

C図はイメージオルシコンの波長感度特性を示す。

D図はイメージオルシコン(5820)と肉眼の色特性、および日光と白熱灯のエネルギー特性を示す。

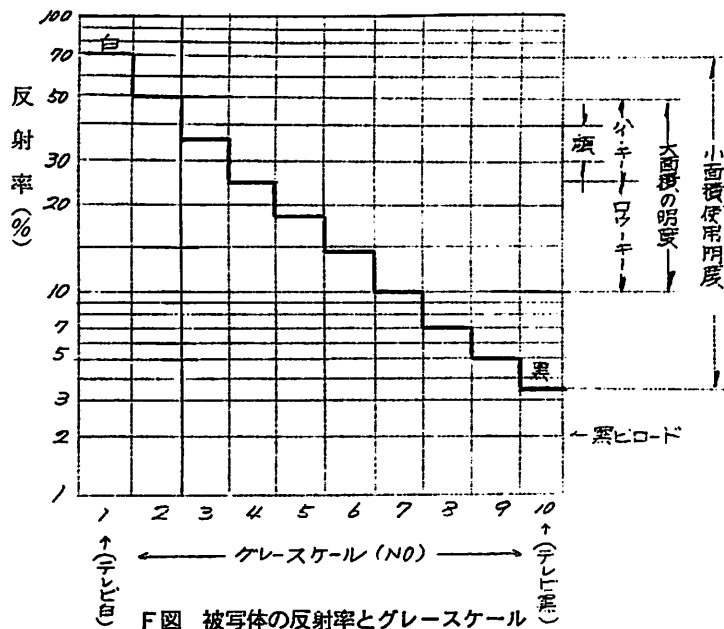
E図はイメージオルシコン5820に蛍光灯及び白熱電球で照明した場合の特性を示したものである。

テレビにおける技術的制約からいって、技術的見地のみから考えるとあまりコントラストの強くない背景に平板な均一照明をほどこした場合が一番取扱は容易である。しかしながら演出上から考えて、劇的要素のあるドラマや舞踊、ミュージカル・ショー等は許される範囲内で、できるだけコントラストを持たせ、適当な陰影をつけた画像が望ましい。そのた

めには被写体となる背景やセット、小道具等の各色がどの程度のグレーの濃淡像に再現されるかを知る必要がある。それには種々の材質につき光の反射率を考慮する必要がある。

テレビ用グレースケール(F図)は縦軸に反射率をとり、横軸を十段階のテレビにおける白く黒まで灰色のスケールを目標としたもので、これによりセットや小道具、衣裳等の基準を定めている。

テレビにおける白とは反射率七〇パー



F図 被写体の反射率とグレースケール

セント、黒とは三・五パーセント以下のものを指す。例えば白いシャツは反射率九〇パーセントであるから、これをグレーや淡青色にかえ、反射率七〇パーセントに低くして白として使っている。初期の頃はセット全体をグレー一色にて明暗を描いたこともあったが、スタジオ内が灰色一色になると、暗い冷たい感じになり、演技者の気分が劇の雰囲気馴染めないうし、また公開番組は観客を入れるので、色彩があった方が見た眼には美し

いので色彩を使うようになった。ここで注意を要することは、色彩を使うと、ついで、見た眼には赤、緑、茶等区別できるが、映像には同色に写るといふことがある。これは色の明度が同一なためで、グレースケールにより色彩の明度を選ばなければ、正しいコントラストは得られない。参考までにNTV、メーキャップ用顔料No.を第2表に示す。

第2表

	塗マックス (パンケーキ)	シャドウ (ライニングカラー)	
		地塗	
男	7 N ~ 8 N	7 N の場合	10 N
		8 N の場合	11 N
女	5 N ~ 6 N	5 N の場合	8 N
		6 N の場合	9 又は 10 N

白黒 TVメーキャップ顔料No. (NTV基準)

一、背景等壁の場合は照度計の裏を壁面に密着させる。

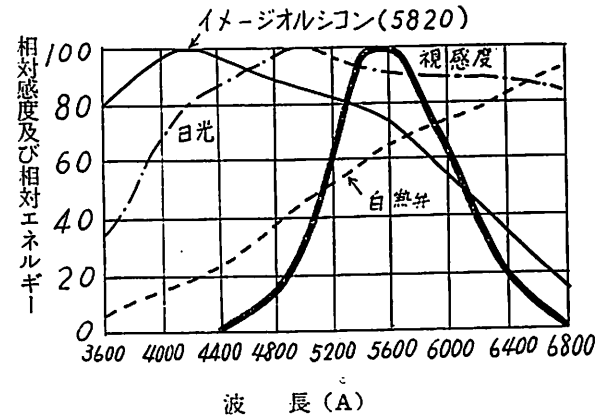
二、被写体は一般に立体的であり、これを構成する面は、あらゆる方向に向いている。したがってこれを一つ一つ測定することは無意味である。シーンの照度

照度の基準値を定める場合に、被写体のこの照度で表わすかを決めておく必要がある。場景各部の照度には高低があり、全般的に低照度の限界を決めるべき照度と、主要被写体の高照度部分のピーク照度に分けて考えられる。ベース照度は場景内容に応じ大幅に変化する性質があり、あいまいな一般的な基準値を決めるには適当でない。一万ピーク照度は場景内容にかかわらず、ある限度以上の照度が必ず必要であり、ピーク照度で基準照度を定めるとよい。

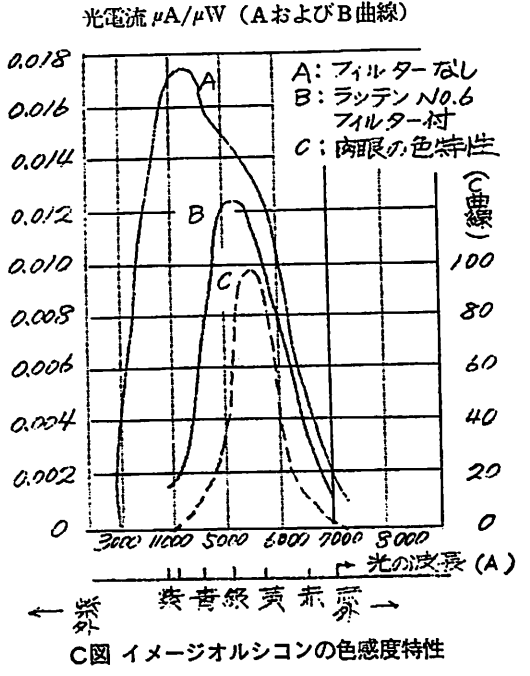
インホメーション番組では技術的画質が重視されるので、ピーク対ベース照度比を小さくし、一般番組より基準値が高くなっている。基準照度はピーク値で一般番組 五〇〇〜二〇〇ルクス、インホメーション番組 一〇〇〇〜一五〇〇ルクス

(ベース照度はピーク照度の五〇〜七〇パーセント程度が適当である)

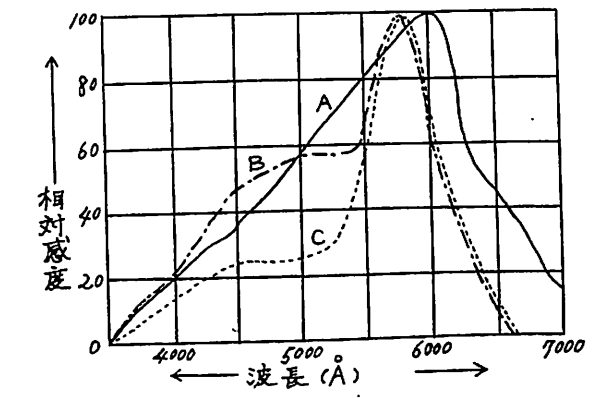
〔照度の測定法〕



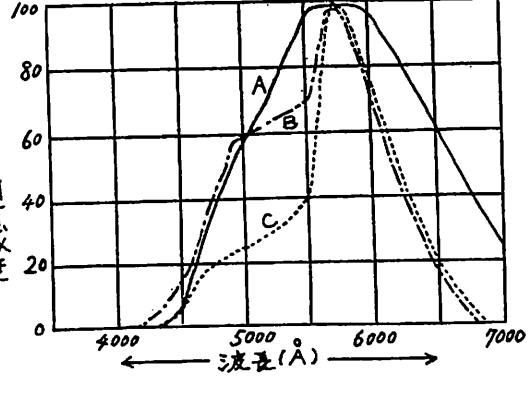
D図 肉眼とイメージオルシコン(5820)の色特性および日光と白熱灯のエネルギー特性



C図 イメージオルシコンの色感度特性



E図 5820イメージオルシコンフィルターなし  
E'E'図とも A=白熱電球 2,800°K  
B=白色蛍光放電管 4,500°K  
C=白色蛍光放電管 3,500°K



E'図 5820イメージオルシコン  
b ラッテンフィルター使用





関西照明家協会

事務局通信

三十九年七月十二日、第八回定期総会を宝塚中山寺に於て深夜開催。出席者五十四名、委任状七六名、九州地区や四国地区からも参加。組織並びに規約を大巾に改正、第八期役員を選出、予算案、活動方針等討議。

雨後大阪南、北地区、神戸地区、京都地区等各地区毎に毎月理事会を開催。

九月 第一回理事会を開催、各地区の意見を集約して新規約全文を決定。印刷配布。

十月 第二回理事会、各種専門委員会委員を次の如く選出。○印は責任者

記号統一委員会

○奥田春一、岡田猪之介、末光昭夫  
プラン料設定委員会

○上地一夫、奥田春一、徳沢章、堀井吾一

ハンドブック作成委員会

○山城宏之、山岡景志郎、宮本修、木本敏夫、楡山実、柿原啓二

舞台設備設計基準作成委員会

○岡田猪之介、上地一夫、木村嘉次、

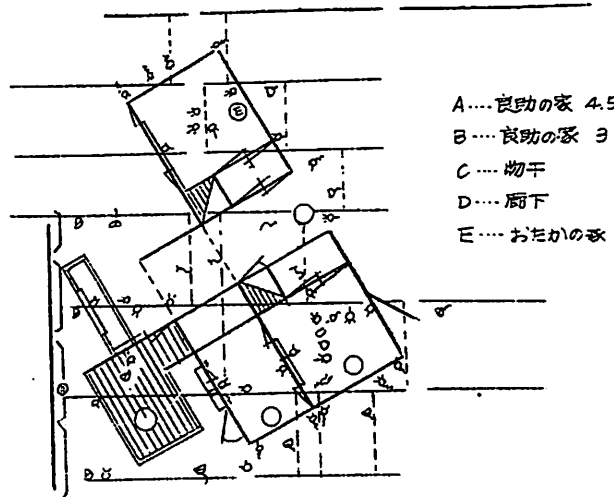
喜多松太郎、熊沢章、笹山泰宏、成瀬昇、宮本修、折田利一

十二月 第三回理事会開催、来年度事業計画検討。三日・日本舞台テレビ美術家協会関西支部結成発会式に岡田理事長出席、祝辞を朗読。二十七日・中尾理事宅全焼に際し類焼見舞。三十一日・木本理事、新たに開場する大阪府立厚生会館の照明チーフとして入社のため、YTV退社

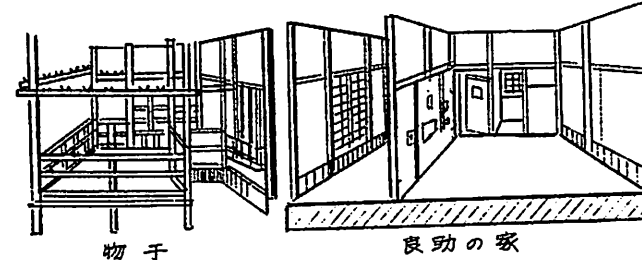
一月 九日・大阪南区の関口すき焼店にて新年宴会を兼ねた拡大理事会開催。二十三名出席、委任状二十四名、各種専門委員会の推進、カラー映画による色彩研究会の実施、名譽会長白井鉄造氏が紫綬褒章を受けられたので御祝いとして記念品贈呈。岡田理事長三年間に渉る会長就任を感謝して記念品贈呈。会員証発行の件等決定。

二月 民放連主催第二回テレビ照明研修会を八日から十三日までの六日間大阪に於て開催に当り、実行委員長主査として岡田理事長実行委員として会員の大西、加納、中田、藤川の諸氏が参加、全国三十九社から五十八名の照明関係者が参加して有意義な講習を実施。

大阪科学技術センター提供の色彩を



- A...良助の家 4.5
- B...良助の家 3
- C...物干
- D...廊下
- E...おまかの家



照明の作り方の一例 (A)

- ワイドアワー...一人息子の一部分
- ◎ ----- ソーラー スポット (2KW)
  - ----- " (500W)
  - ----- " ペースライト
  - ----- " (キーライト)
  - ----- " (タッチライト)
  - B ----- " (バックライト)
  - △ ----- スクープライト (500W) ペースライト
  - △ ----- " (1KW) "
  - ∩ ----- バンクライト
  - ∪ ----- ストリップライト
  - ∩ ----- パンタグラフ

照明の作り方の一例 (B)

	照明の作り方の一例 (B)					照明の作り方の一例 (B)			
	DAY	NIGHT	NIGHT	SET		DAY	NIGHT	NIGHT	SET
UP ベースライト 500W スクープライト	50	35	0	A	キーライト (ヨル使用)	0	80	70	A
	50	35	0	B		0	80	70	B
	65			C		0	65		C
				D		0	80		D
				E		0	65	0	E
FR ベースライト 1KW スクープライト	65	35	35~40	A	タッチ ライト	0	65	0	A
	60	35	35~40	B		0	70	0	B
	70			C		0	70		C
	60	45		D		0	70		D
		45		E			65		E
UP ベースライ トバンクライト	45	35	35	A	キーライト (ヒル使用) 2KWソーラー スポット				A
				B		80			B
				C					C
				D					D
				E					E
押工ベースライト 500W ソーラー スポット	85	70	60	A	ストリップ ライト				A
	80	65	60	B					B
	100			C					C
	80	70		D		70			D
		70		E					E
バックライト 500W ソーラー スポット	70	100	85	A				A	
	70	95	85	B				B	
	100			C				C	
	100	100		D				D	
		90		E				E	

照明操作表のように調光器により昼、夜のシーン及びその劇の雰囲気をかもし出すように照明設計し、操作をする。

テーマとしたカラー映画観賞会を下記の如く実施した。十七日京都公会館に於て夜一回二十日大阪心斎橋の日立ホールに於て朝と夜二回開催。三ヶ月以降は松竹、民放会社等の春季闘争激化並びに業務多忙のため協力の活動は停滞している。尚大阪府立厚生会館ホールの照明設備見学並びに東芝の技師に依るSCR調光装置講習会を近日中に開催予定。

また、カラースライドに依る照明巡回文庫を計画、その制作実行委員岡田猪之介、山城宏之、岸本敏二、三氏に於て検討中

第八期役員の主な者

名譽会長 白井鉄造 (宝塚歌劇団)  
会長 喜多松太郎 (新歌舞伎座)  
副会長 高田平太郎 (梅田コヤ劇場)  
成瀬 昇 (京都フリー)

柳田 利一 (南街会館)  
理事長 岡田猪之介 (読売TV)  
事務局長 上地一夫 (朝日フェステイバル)

神戸地区長 奥田春一 (神戸国際会館)  
大阪北地区長 熊沢章 (産経会館)  
大阪南地区長 佐竹啓三郎 (朝日座)  
京都地区長 山岡景志郎 (京都南座)  
事務局総務 尾崎慶夫 (松竹中座)

事務局出版 中尾辰雄 (岡田照明) 他理事五十八名。  
日本照明家協議会常任理事 岡田猪之介  
上地 一夫  
竹本 文蔵

舞台照明家協会  
四十年年度役員  
会長 小川 昇

常任監事 齊藤政雄 (松竹)  
監事 松浦光次郎 (東宝)  
理事 沼田勝夫 (フジテレビ)  
理事 前田二郎 (松竹)  
事務局長 和田光弘 (共立照明)  
常任監事 青木久一 (日本テレビ)  
阿部吉之助 (日比谷照明)

事務局  
常任監事 岩崎令児  
大野 洋  
大庭三郎  
梶 孝三  
梶田義昌 (共立照明)  
篠木佐夫  
相原清恒 (松竹)  
高橋英吉 (日本教育テレビ)  
高橋敦夫 (産経ホール)  
土村品 (NHK第一TV)

常任監事 布川重夫(明治座)  
 常任理事 原英一(東京舞台照明)  
 理事 塚原 清(松竹)  
 小島成夫(松竹)  
 相原誠一郎(松竹)  
 山本順三(松竹)  
 小長井照司(明治座)  
 比企国明(東洋興行)  
 沢田裕雨(日生劇場)  
 穴沢喜美男  
 立木定彦(六沢照明)  
 有馬裕人  
 今井相次  
 稲垣勝彦(大座照明)  
 加藤光治(田中照明)  
 秋山易三(松崎照明)  
 稲垣 学(松崎照明)  
 松崎国雄  
 関根憲一(ASG)  
 小倉 隆(共立照明)  
 篠原 久(共立照明)  
 服部鉄之輔(共立照明)  
 丸岡寿照(共立照明)  
 秋本道男(東京舞台照明)  
 牛丸 茂(東京舞台照明)  
 大和田恵久(東京舞台照  
 明)

理事 片桐隆久(日本テレビ)  
 石川浩久(日本教育テレ  
 ビ)  
 石塚哲郎(日本教育テレ  
 ビ)  
 高柴正夫(東京12チャン  
 ネル)  
 石山和夫(ミカドCLS  
 プロ)  
 浦川明郎(ミカドCLS  
 プロ)  
 倉持昭二(共立講堂)  
 加藤義雄(厚生年金会館)  
 青木繁夫(東京文化会館)  
 田村昭司(都市センター)  
 遠山静夫  
 吉本一郎  
 浦田謙二郎(静岡公会堂)  
 川村 勝(駿府会館)

集方法の検討。地区の会費の納入を  
 早める方法の検討。維持会委獲得に  
 地区が強力に働きかける等の話し合  
 いがなされた。  
 ○会報に関する件  
 中部で会報出版不可能になった理  
 由が若尾氏より説明があり全員了  
 承。二号の発行の目とを小川氏より  
 説明があり、次回三号を中部が出版  
 する事を確認。  
 ○三委員会について  
 各地区で検討されたものを頻繁に  
 中間報告をする様申し合せした。  
 ○協議会とホール協会について  
 東京、関西はホール協会に組織的  
 につながりは余りないが、個人的な  
 つながりがあり、中部ではない現況  
 なので、もっと組織的に結んだ方が  
 設備標準委員会でも活動が易くなる  
 のではないかと意見が出され、各地  
 区で研究する事になった。  
 ○十一月、十二月常任理事会休会。  
 会報発送事務。  
 ○一月常任理事会  
 総会に関する件。決算予算の承  
 認。臨時雇人件費値上に関する件。  
 ○二月二十二日  
 第十回総会開催  
 ○三月八日 理事会

役員改選 臨時雇人件費値上の検  
 討  
 ○三月十二日 常任理事会  
 事務局員依頼の件。テキストブ  
 ック編集委員会の検討。臨時雇人件費  
 値上の検討。  
 三月二十二日 理事会  
 臨時雇人件費値上の校討、議決、  
 四月一日より実施。  
 ○四月六日 常任理事会  
 臨時雇人件費改訂文案製作。テキ  
 ストブック編集委員会に関する件  
 ○四月十五日 臨時雇人件費改訂表  
 各関係者に発送。事務局通信発送。  
 ○五月十三日 常任理事会  
 テキストブック編集委員会中間報  
 告。運営方針に関する提案(部会活  
 動検討)。中部、若尾氏出席。会報  
 の編集方針と原稿依頼。  
 ○会員移動  
 新入会員(三十九年十一月十四  
 年六月)  
 秋本晃、伊藤正雄、井上功、片野  
 豊、金子昭夫、木村茂、後藤秀吉、塩  
 原一昭、篠原孝、渋谷吉行、杉山秀  
 夫、関本光政、高橋紀明、高羽昇、  
 寺田義雄、長嶋幸男、西谷克忠、樋  
 井修二、本棒義久、南健一、室中洋  
 一、秋山幸雄、渡瀬治夫(以上二十三

名共立照明所屬) 朝倉芳子、薄井澄  
 夫、清水俊彦、関根一郎、寺田義雄、  
 森谷正一、渡辺一夫、(以上七名、  
 東京舞台照明所屬) 伊藤堯、上谷昭  
 久、小竹命、鈴木紀一、(以上四名  
 松崎照明所屬) 伊藤裕美(田中照研)  
 稲垣彰晴、江上浩司、木下正雄、篠  
 田昭二、高岩稔、田村吉弘、戸出英  
 治、田中秀夫、宮地義辰(以上九名  
 NHK第一テレビ調整部所屬) 上田  
 瑠美、衣斐郁夫、河野幹雄、川本周  
 二、久利宏、小旗章(以上六名有馬  
 照研所屬) 大杉幸茂(東宝) 岡田  
 孝、島居伸行(以上二名松竹所屬)  
 岡田忠幸、佐藤渡美子(以上二名大  
 庭照研所屬) 金子能章、黒須久雄。  
 越堅一雄、小林正夫、高柴章、新村  
 定ム、萩原征四郎、橋本英一、(以  
 上八名東京12チャンネル所屬) 佐藤  
 恵男(郡馬音楽センター) 中島政良  
 (CLSプロ) 北村晃二(日比谷照  
 明) 外崎俊弘(フリー)

和田光弘  
 日本テレビより共立照明へ  
 有馬裕人  
 フリーより有馬照研へ  
 星金次郎  
 フリーより有馬照研へ  
 頼実啓一  
 安田生命ホールよりフリーへ  
 秋山易三  
 フリーより松崎照研へ  
 須員 勝  
 フリーより松崎照研へ

玉田 明(若 研)  
 小林 功(津)  
 小西敏正(三 光)  
 五月秀夫(ミカド)  
 木村英世(名 鉄)  
 宮田憲一(御 園)  
 官島晴雄(公会堂)  
 森川正信(御 園)  
 森 康明(名舞研)  
 門田 襄(四日市)  
 鈴木竹守(CBC)  
 安部 清(NHK)  
 柴山矩仁郎(県体)  
 以上(イロハ順)

理事会を開き中部発行の全国誌3  
 号の編集方針及び編集部を組織す  
 る。  
 ▲編集後記▼  
 御寄稿の皆々様、本当に有難うご  
 ざいました。皆様の御協力を得まし  
 て、やっと出版になりました。  
 創刊号よりバトンタッチを受け  
 て、ついに出版にならず、関東の皆  
 様には、大変御迷惑をかけ、ここに  
 やっと三号として、中部にて出来上  
 りました。  
 日本照明家協議会  
 「会報」No.3  
 昭和40年12月1日発行  
 編集人 丸田 悦夫  
 発行人 小川 昇  
 発行所 日本照明家協議会  
 東京都港区新橋三丁目七番六号  
 TEL(五九)四八二四